

第5回浜松市未来デザイン会議 次第

日時：平成26年5月24日(土)午後2時00分から

場所：浜松市役所本館8階 全員協議会室

- 1 開会
- 2 策定スケジュールについて…【資料2】
- 3 未来ビジョン(基本構想)案について…【資料3】
- 4 基本計画案について…【資料4】
- 5 閉会

第5回浜松市未来デザイン会議 配付資料一覧

資料1・・・浜松市未来デザイン会議 委員名簿

資料2・・・新・総合計画策定スケジュール

資料3・・・浜松市総合計画 基本構想 浜松市未来ビジョン(案)

資料4・・・浜松市総合計画 基本計画(案)

・第4回浜松市未来デザイン会議 議事録

・第6回浜松市未来デザイン会議 開催案内

浜松市未来デザイン会議 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
座長	鈴木 康友	浜松市長
有識者委員 コーディネーター	根本 敏行	静岡文化芸術大学 文化政策学部長
有識者委員	長澤 秀幸	浜松商工会議所 産業振興部経営支援課 係長
有識者委員	鈴木 厚志	京丸園株式会社 代表取締役
有識者委員	前田 剛志	TENKOMORI (天竜これからの森を考える会)
有識者委員	宗像 倫子	聖隷浜松病院 地域連携サービスセンター在宅連携担当 係長
有識者委員	須藤 京子	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会 理事長
有識者委員	松尾 廣伸	静岡大学大学院 工学研究科電気電子工学専攻 助教
有識者委員	佐藤 順子	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 准教授
有識者委員	石川 敦史	なかよし第2保育園 園長
有識者委員	榊原 正之	遠州鉄道株式会社 運輸営業部運輸営業課 副課長
有識者委員	田中 充	浜松市自治会連合会 総務部会長
公募委員	石倉 達也	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	河合 美里	浜松学院大学 学生
公募委員	河原みち代	みらいネット浜松 代表
公募委員	酒井 浩一	浜松ホトニクス株式会社 開発本部
公募委員	杉山 琴音	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	外山 佳邦	株式会社55634 代表取締役
公募委員	西川裕太郎	会社員
公募委員	松本 曠世	静岡大学 工学部 非常勤講師
公募委員	村田亜希子	会社員
公募委員	村田 昌樹	OMソーラー株式会社
公募委員	山田ゆかり	静岡大学 学生

【平成26年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		●特別委員会(7) ・基本構想について	●特別委員会(4) ・第5回策定委員会を受けた議論 ・基本構想 ・基本計画(案)		●特別委員会 ・第6回策定委員会を受けた議論 ・パブリックコメント案		●特別委員会 ・第7回策定委員会を受けた議論 ・最終確認	●議案審議	●議決			
未来デザイン会議		●第5回(24) ・基本構想 ・基本計画(案)		●第6回(26) ・パブリックコメント案			●第7回 ・最終確認					
庁内ワーキング	●第7回(24) ・基本計画(案)について	(策定委員会傍聴)		●第8回 ・基本計画 (策定委員会傍聴)			●第9回 ・最終確認 (策定委員会傍聴)					
基礎調査			◎区協議会 ・意見聴取		◎パブリックコメント実施		◎基本構想案確定 ◎基本計画案確定			◎印刷、校正	◎区協議会 ・最終報告	◎関係者送付

【平成 25 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		●特別委員会(31) ・策定方針 ・人口推計結果報告	●特別委員会(14) ・策定方針 ・人口推計結果報告		●特別委員会(23) ・策定委員の確認 ・市民インタビュー中間報告		●特別委員会(8) ・第1回策定委員会を受けた議論	●特別委員会(13) ・第2回策定委員会を受けた議論 ◎特別委員会への意見照会(20)			●特別委員会(4) ・第3回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案) ◎特別委員会への意見照会	●特別委員会(24) ・第4回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案)
未来デザイン会議		(公募開始) ・広報はままつ ・HP ・大学等に依頼 (5月31日㍻)	(公募委員審査) ・書類審査	(公募委員審査) ・面接審査	(有識者委員調整)	●第1回(29) ・策定方針 ・人口推計結果報告 ・未来の理想への思い	(宿題など) ・未来の理想の姿のイメージ検討	●第2回(2) ・未来の理想の姿 ・市民インタビュー結果 ・議会からの意見 ・基本構想について (意見交換会)(28) ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(16) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案) ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(14) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案) ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(宿題など) ・基本構想(案)の修正意見	●第4回(15) ・議会からの意見 ・市民意識調査結果 ・基本構想(案) ・基本計画について ・来年度について
庁内ワーキング	●第1回(25) ・策定方針 ・市民インタビュー ・策定委員会		●第2回(3) ・市民インタビュー中間報告 ・個別計画との整合について			(策定委員会傍聴)	●第3回(10) ・策定委員会の意見確認 ・市民インタビュー結果 ・基本構想について ・基本計画準備 ・政策レポート作成	(策定委員会傍聴) ●第4回(12) ・策定委員会の意見確認 ・基本構想について ・基本計画準備 (意見交換会参加)	(意見交換会参加) ●第5回(20) ・基本構想(素案)確認 ・政策検討 ・基本計画準備	(政策レポート修正) (策定委員会傍聴)		●第6回(7) ・基本計画について ・政策レポートまとめ (策定委員会傍聴)
基礎調査	◎人口推計確定	◎市民インタビュー ・名簿作成 ・対象者交渉	◎市民インタビュー開始 ◎市民意識調査準備	(市民インタビュー) ◎市民意識調査委託		◎市民意識調査開始 ・ビッグデータの活用 ・市民の声システムの活用 ・市民インタビューの活用				◎市民意識調査 ・中間報告書作成		◎市民意識調査 ・完了 ・最終報告書

浜松市総合計画 基本構想

浜松市未来ビジョン

(案)

目 次

都市の将来像	1
市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』 ・技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ ・小さな歯車が大きな‘こと’を動かす ・新しさを生む伝統を未来へつなぐ	…[創造都市] …[市民協働] …[ひとつづくり]
1 ダースの未来（理想の姿）	3
01 つくる【創る】	…[産業・文化]
・‘ものづくり’と‘文化’で感動 ・‘うまい’で感動 ・他にはない‘ウリ’で感動	
02 たかめる【高める】	…[農林水産業]
・[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT] ・[森の恵み]×[デザイン]×[循環] ・[海や川の恵み]×[ブランド]×[商い]	
03 いかす【活かす】	…[エネルギー]
・地の利を活かしたエネルギー ・無駄を省いたエネルギー ・自ら生み出し、賢く使うエネルギー	
04 めぐらす【巡らす】	…[環境]
・豊かな自然と共存する暮らし ・世界が羨望する豊富な水資源 ・1人当たりのごみ排出量は減少	
05 つなぐ【繋ぐ】	…[多様性]
・「まちなか」は、創造都市・浜松の顔 ・ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」	
06 みとめあう【認め合う】	…[多文化共生]
・多文化共生が国際的な人財をつくる ・心の国境を感じさせない都市	
07 ささえあう【支え合う】	…[安全・安心]
・支え合いがあるから安心 ・つながりがあるから安心 ・充実した医療体制だから安心	
08 はぐくむ【育む】	…[子育て・教育]
・子育ての達成感を地域でシェア ・地域の見守りで出生率は上向き ・世界に誇る浜松育ち	
09 みのる【実る】	…[老い方]
・60歳を過ぎるとカッコいい ・いつまでも快適で質の高い生活を ・長寿が喜ばれる世の中へ	
10 はたらく【働く】	…[働き方]
・働くことにチャレンジ ・働くことをサポート ・働きやすい環境を整備	
11 かえる【変える】	…[住まい方]
・住まい方を変える ・居住エリアを変える ・エコな乗り方に変える ・公共施設を変える	
12 むすぶ【結ぶ】	…[情報社会]
・働き方に ICT ・学び方に ICT ・暮らしに ICT ・遊びに ICT	

市民協働で築く

『未来へかがやく創造都市・浜松』

未来の浜松をつくるのは、私たち市民です。

私たちは、2045年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を「都市の将来像」に掲げます。

私たちは、世界に誇る技術と文化を有する都市を受け継ぎました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない一つの‘まち’が、ものづくりを中心に自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行できたのは、先人の高い創造性とたゆみない努力、**何事にも果敢に挑戦する市民意識のたまもの**です。

私たちは、このすばらしい都市と精神を次代に引き継ぐため、長期的な展望に立って、課題を認識した上で、希望に満ちた未来を創造します。

以下に、30年後（1世代先）の理想の姿を示し、「浜松市未来ビジョン」とします。

——技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ【創造都市】——

浜松はクリエイティブシティとして世界に認められています。地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、私たちの暮らしの質を高めています。

産業面においては、先人たちの‘やрмаいか精神’が受け継がれ、新しいものを創り、新しいことに挑戦しています。多種多様なベンチャー企業が次々と生まれ、イノベーションの連鎖が生まれています。自営業などのスモールビジネスも好調で、建築や商工業デザインのクリエイターが活発に行動しています。

玄関口となる‘まちなか’では、洗練された文化が感じられ、多くの人々に心地よさを提供しています。屋外のコンサートによってメロディが響き渡り、駅前広場などの公共空間では、**芸術性**の高い絵画・オブジェなどを見て楽しむことができます。音楽を中心に、創造性豊かな人財の育成が行われており、子どもころから芸術に触れることによって浜松から巣立った音楽家・文化人が世界を舞台に活躍しています。アクトシティで開かれるクラシックやジャズ**など様々なジャンル**の演奏会、中山間地域に受け継がれる伝統芸能は私たちに感動を与えてくれます。広大な市域に広がる多様な文化が相互につながり、歴史・伝統を脈々と引き継いでいます。とりわけ、浜松国際ピアノコンクールは、権威ある音楽イベントとして全世界に認められ、「音楽の都・浜松」を象徴する存在となっています。

物心両面で暮らしの豊かさが高まる中、多くの外国人もまた幸せに暮らしています。日本人市民と外国人市民がお互いの文化や習慣の違いを認め合い、共に生きるまちづくりを

進めています。日本一外国人が暮らしやすい都市という評価を得て、情報や資金が世界中から集まるため、新しい価値が生まれています。さらに、**質の高い**教育を受けた子どもたちは、世界を舞台に活躍しており、クリエイティブシティの国際色を高める重要な人財になっています。

———小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす【市民協働】———

浜松を創造する人財は、老若男女のすべての市民です。日々の生活を送る上で、対等な立場で支え合い、**市民主体**によるまちづくりを進めています。また、企業は、地域社会における責任を理解し、**社会貢献活動に取り組み**、NPO 法人をはじめとした市民活動団体も、経済的に自立して活動しています。こうした多様な市民協働の担い手は、お互いに顔を合わせ、時には活発な意見交換を行い、時には笑い合いながら信頼関係を強めています。

浜松まつりや地域の祭り・伝統芸能は、歴史ある大切な文化として次世代に引き継がれています。年齢や職業、国籍が異なる人同士が仲間になり、地域コミュニティの活動を通して、地域の活性化に貢献しています。

生活基盤については、**居住エリアの集約化が徐々に進行し、公共インフラの規模が縮小され、**将来への負担も抑えられています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、日々の暮らしを楽しんでいます。

こうしたまちづくりは、移動や消費にかかる地球環境への負荷も軽減しています。人が生きるために必要な水や自然環境について、将来にわたって守り続けることの大切さを子どもたちから理解し、大自然からの豊かな恵みを循環させるため、森林や河川、海、湖沼を守る取り組みも、協働で行われています。

———新しさを生む伝統を未来へつなぐ【ひとづくり】———

浜松は人財が一番の誇りです。これは、子どもたちに対して、家庭・学校・地域において、いっばいの愛情を注ぎ、豊かな心と社会における規範意識、**社会貢献への意欲**を**はぐくんで**いるからです。礼儀を重んじ、自ら人間力を高めた人財が、誇りを持って浜松を支えています。

また、先人たちの技と知恵が伝承されています。産業面では、ものづくり産業の伝統の技が活かされ、優れた技能を持つ人財が、付加価値や生産性の高い産業を成長させています。こうした成長産業への人財や資金の集中とともに、若い世代に加えて、女性や高齢の世代の雇用を大幅に拡大させたことによって、地域経済は順調に推移しています。**市民活動においても、**長年地域で生きてきた先輩から多くの知恵を若い世代が受け継ぎながら、浜松をより良くしています。

浜松には、都市部から中山間地域まで、全国に類を見ない多様性があります。こうした多様性を活かして、‘ひと’を育て、‘モノ’をつくり、‘こと’**(文化)**を創造することで消費活動を活発化させています。‘ひと’‘モノ’‘こと’を循環させるサイクルによって、新しい価値を生み出す伝統が将来に**つながっています。**

以下に、浜松の理想の姿を構成する「1 ダースの未来」を描きました。私たち浜松市民は、希望に満ちた未来に向けて挑戦します。

つくる【創る】

「見たこともない」感動をつくる。

—— ‘ものづくり’ と ‘文化’ で感動 ——

浜松は、発展し続ける都市です。機能からデザイン、サービス、また、観光や文化芸術に至るまで「見たこともない」と驚かせる‘モノ’や‘こと’があり、私たちの生活の一部にさえも人を惹きつける魅力が備わっています。

ものづくり分野では、技術研究へのひたむきな情熱と新しいものに挑むチャレンジ精神が「オンリーワン技術」を生み、脈々と受け継がれながら常に革新され、新たな産業の糧となっています。アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれるといった連鎖、高い技術力で不可能を可能にする浜松発のイノベーションが海外にも広がり、世界経済を支えています。

文化芸術分野においても、新鋭のミュージシャンやアーティスト、クリエイターが創作活動を繰り広げ、私たちに感動を与えています。また、音楽を中心とした多様な文化が新たな価値を生み出し、クリエイティブ産業として成長を遂げています。

浜松で認められることが、世界で認められる近道です。世界からたくさんの起業家や技術者、アーティストやクリエイターが集まり、私たちが、オール浜松で彼らのチャレンジ精神を後押ししています。

—— ‘うまい’ で感動 ——

世界からの来訪者が多いため、商業にもビジネスチャンスが生まれています。浜松産の農林水産物は、安全とおいしさで勝負し、ここでしか手に入らない逸品を取りそろえた店舗が軒を連ねています。腕の立つ著名な料理人も多く、世界の食通が一度は訪れたい店としてあげる飲食店も店を構えています。浜松産を食べたいと、訪れる人の思いを実現することで、満足度が高まり、家族や友人を連れて再び訪れています。もちろん、私たちもリピーターです。店舗同士も競い合い、時には協力して、あたたかいおもてなしが来店客を満足させています。

—— 他にはない ‘ウリ’ で感動 ——

大自然の恵みを体感できる中山間地域では、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林の枝払いなどをはじめとした体験型の観光が人気です。首都圏などからの観光客も増え、顔の見えるあたたかい結びつきが居心地の良さにつながり、体験者には、「もうひとつのじいじ、ばあばんち」として親しまれています。多くのリピーターが集まり、中には移住した人も見られます。

このほか、音楽をはじめとした文化、地域ごとの伝統行事、浜名湖や遠州灘におけるマリンスポーツ、外国人市民が営む店舗などが‘ウリ’です。私たちも、休みの日には、市内で余暇を楽しみます。

他にはない‘ウリ’を活かしたトップレベルの発信力で多くの人を呼び込んでいます。

たかめる【高める】

自然の恵み×浜松スパイス＝付加価値∞。

———【大地の恵み】×【ものづくり産業】×【ICT】———

浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる肥沃な台地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。また、経営感覚を身につけた事業者が、製造業や観光、医療、福祉などとの連携により、植物工場の設置や新しいサービスへの転換、光技術などの応用を進めています。

農業分野では、大規模農家から小規模農家まで、バランス良く発展しています。効率性を重視した生産工程で安価な外国産品と対等に勝負することもあれば、手間を惜しまず、世界中の高級レストランから注文が入る高品質な農産物を生産することもあります。成功の背景には、まちなかに住む人でも、サラリーマンであっても、農業を学ぶ環境が整えられたことが挙げられます。これまでの「食べる＝消費する」だけの立場から、多くの市民が「つくる＝生産する」の視点を有することに加え、ICT分野の技術士やマーケティングを行うデータサイエンティストなどの専門家が農業に関心を持ち、経営に関わったり、実際に畑を耕したりすることで、健康や福祉などの新しい分野へと結びつけています。

———【森の恵み】×【デザイン】×【循環】———

林業分野では、植林、伐採の計画的なサイクルのもと、効率よく材木を出荷する体制が整い、「Tenryu-zai」は世界に通用するブランドとなっています。地元のクリエイターとの結びつきから、デザイン性の高い家具や玩具などに加工され、全国に広く流通する6次産業化も進んでいます。未利用間伐材もバイオマスの定着により、燃料として余すところなく利用されており、環境保全を兼ねながら収益をあげるサイクルは、全国のモデルとなっています。また、多くの建物には「Tenryu-zai」が使われています。

子どものころから森林へ足を運ぶことによって、山林を身近に感じ、「命の源である水・水の源である山」としての価値に多くの人気が付きました。この結果、生活を守る林業を誇りある職業と感じる人が増え、中山間地域に移住する人も増加しています。

———【海や川の恵み】×【ブランド】×【商い】———

水産業分野では、海や川、湖での資源を守り育てる漁業が安定的な産業として定着し、船具の改良や水産加工業、流通業の発展とともに、私たちの食卓に安価でおいしい食材を提供しています。また、漁獲の安定により、ウナギやトラフグ、クルマエビ、ノコギリガザミといった特色ある水産資源は、地元の料理店では産地ならではの看板メニューとして人気を呼び、浜松ブランドは高級料理店からも注文が絶えない食材になっています。

さらに、魚介の孵化や育成技術の向上は、商業的な栽培漁業や養殖業を活性化しているほか、市民が参加する放流活動など水辺の環境を自ら保全する取り組みを充実させています。資源豊かな川辺でアユ釣りなどのレジャーを楽しむ人や、浜名湖でアサリやハマグリなどの潮干狩りなどのレジャーに訪れる観光客の増加が地域の賑わいを創出しています。

いかす【活かす】

日当たり良好、未来に無駄なし。

———地の利を活かしたエネルギー———

浜松は、地の利を最大限に活用した「再生可能エネルギー」の導入が進んでいます。

日照時間は全国トップクラス。ほとんどの住宅や工場、公共施設などには、太陽光をエネルギーに変える屋根や壁面が備わっています。さらに、ものづくり産業の技術力によって、研究開発が継続的に行われ、太陽光発電のエネルギー効率が大幅に向上するなど、再生可能エネルギーに関する技術は大幅に進歩しています。

遠州のからっ風も活用されています。かつては体感温度を下げる冷たい季節風でしたが、今では、風力発電設備から届く電気を通して、快適な空間を提供してくれています。

豊富なバイオマス資源は、浜松の地域振興にも大きく寄与しています。中山間地域の林業に活気を取り戻した木質バイオマス発電に加え、私たちから排出された生ごみをエネルギーに変えるバイオガス発電も稼働しています。

こうした取り組みにより、再生可能エネルギーによる市民1人当たりの発電量が日本一になるとともに、多くの市民が普段使用する電力に再生可能エネルギーを選択しています。

また、再生可能エネルギーが普及する中で、CO₂排出量が最小限に抑えられています。

———無駄を省いたエネルギー———

1人当たりのエネルギー使用量は、30年前と比較すると大幅に減少しています。

それは、住宅や工場、公共施設など、すべての施設が省エネルギーに取り組むとともに、エネルギーを創る技術だけでなく、エネルギーの効率性を高める技術も向上したからです。

私たちが暮らす住宅は、高气密・高断熱化やエネルギーを無駄なく賢く使う設備の標準装備など性能が向上し、省エネルギーに配慮されたものが一般的になっています。

———自ら生み出し、賢く使うエネルギー———

私たちのエネルギーに対する意識は大いに高まりました。

住宅や工場、公共施設などでは、必要なエネルギーは自分で創る、まさにエネルギーを自給自足しています。そして、使用を抑えながら、必要な分だけ、効率良く利用しています。

また、地域コミュニティ単位では、住宅や工場など、それぞれが創ったエネルギーの余剰分などを無駄なく賢く融通し合う社会システムが構築されています。

多種多様な「再生可能エネルギー」が安定供給され、市内のエネルギー全体に占めるシェアも徐々に拡大しています。これにより、災害など想定外の事態にも十分対応できる都市になっています。

めぐらす【巡らす】

エコ (ecological) = エコ (economical)。

——豊かな自然環境と共存する暮らし——

山、海、川、湖といった豊かな自然環境に恵まれた浜松。その豊かさは、多種多様な生物を**はぐくんで**きました。これは浜松の貴重な財産であり、“浜松らしさ”です。また、身近な自然を大切にする意識も高まり、きれいな水と空気の中で生活できるよう市民一人ひとりが心がけています。とりわけ、佐鳴湖はじめ身近な水辺では水質が格段に向上し、夏場には、子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

環境教育も進み、「環境にやさしいことはおサイフにもやさしいこと」と、「自然環境を守ることは人が生きるため絶対的に必要なこと」を**すべての市民が理解し、日々の生活の中で、自然環境と共存する方法を自ら考え、行動しています。また、こうした環境に配慮した取り組みを世界に提供することで、地球環境の保全に貢献しています。**

——世界が羨望する豊富な水資源——

世界と比較して我が国の降雨量は多く、その中でも浜松の年間降水量は全国的に見ても多いため、水資源が豊富です。また、市域の約70%が山林で、きれいで豊富な水を産み出す条件がそろっています。ただし、水は無尽蔵ではありません。山を守ることが水を守ることであり、人間も守られています。天竜川を通じて、上流は下流のことを考え、下流は上流のことを感謝する気持ちがはぐくまれています。私たちは、水の源である山や川を大切にし、水を浪費せず、汚れた水は適切に処理しています。適切な管理によって、豪雨などによる災害も少なくなりました。下水道の処理施設もコンパクト化され、浄化された水の再利用も行われています。戦略物資と言われる石油の代替はありますが、水の代わりはありません。「水>油」。水は私たちの誇りです。

——1人当たりのごみ排出量は減少——

不要物がすべてごみとは限りません。私たちの生活に3R（リサイクル・リユース・リデュース）の取り組みが定着していて、1人当たりのごみ排出量は年々減少しています。また、高度な技術力を活かして、電子機器から再利用できるレアメタルの回収も先進的に取り組まれています。このため、ごみ処理施設は徐々に廃止され、施設はコンパクト化されています。

これまで、化石燃料や鉱物など資源の枯渇が課題とされてきましたが、私たちの世代はそれを使い切っていません。技術革新と協働で、環境に配慮した取り組みを向上させたからです。

つなぐ【繋ぐ】

「都会」と「田舎」。両方あって丁度良い。

——「まちなか」は、創造都市・浜松の顔——

「まちなか」は、創造都市・浜松の「顔」として栄えています。アクトシティ浜松周辺の歩道や壁面には、音響やビジュアルアートのデザインがあり、創造性豊かな文化を感じることができます。また、国際的な文化・スポーツのイベントが盛んに開催され、海外からも多くの人を訪れます。

まちなかの店舗も賑わっています。店舗同士が連携し、大規模店やネットショップと差別化することで、歩いてショッピングを楽しむエリアとして確立しており、「華やかさ」や「ワクワク感」を得ることができます。また、居住空間としても洗練されていて、多くの市民が移り住んでいます。

さらに、公共、商業施設などの都市機能が更に集積し、店舗2階などの空きスペースは、ベンチャー企業の仕事場やアーティスト・デザイナーのアトリエとしても活用されています。文化、商業、居住、業務、歴史などが備わった「まちなか」は、多くの人で賑わいを見せています。

——ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」——

一方で、自然豊かな「中山間地域」は、命の源である水と緑を生み出す、欠かすことのできない地域であり、その価値と自然環境の大切さが認識されています。若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどり、**おくない**、田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。まちなかにおいても、イベントとして披露される回数も多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

昔ながらの人付き合いが根付いた「中山間地域」では、**豊かな自然と地域伝統が満喫できる暮らし**を選択した若者や高齢の世代が流入し、新しい雇用も生まれています。「都会」と「田舎」が両方あって、緊密に結ばれている浜松。大都市圏からのアクセスも良く「ほどよい田舎」として、幅広い年代が暮らしやすい生活スポットとなっています。

みとめあう【認め合う】

似ていない。だから、うまくいく。

——多文化共生が国際的な人財をつくる——

浜松は、外国人が多く居住する「外国人集住先進都市」であり、海外の文化と共生する術が身についています。このため、世界各国の人財も、安心して暮らす中で、それぞれの能力を発揮しています。日本人市民も外国人市民も浜松で育つ子どもたちは、質の高い教育により自らの希望に向かって、得意とする分野で成功を遂げています。

小中学校では、外国人の子どもに対しても、母国語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、母国語の言語支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。外国人の子どもたちは、日に日に文化や習慣の違いを理解し、日本人の子どもたちとも一緒に学び、遊んでいます。一方、外国人のクラスメイトと共に成長した日本人の子どもたちは、外国人との付き合いや海外での生活を障壁に感じることはないため、全世界で活躍しており、浜松からインターナショナルな人財が輩出しています。こうした浜松出身者の活躍は、海外の都市から評価され、我が国のイメージ向上にも貢献しています。

——心の国境を感じさせない都市——

地域コミュニティの場では、日本人市民と外国人市民が一緒になって、自治会活動をはじめ、地域のお祭りや清掃ボランティアなどの様々な活動に参加しています。また、海外の文化を取り入れた新しいイベントなどが生まれています。お互いの文化を教え合う教室なども共同運営されることにより、相互の習慣の違いを受け入れる優しさや、外国人市民が日本の決まりを尊重する考え方が定着し、言語や文化の違いに起因するトラブルはありません。

また、ブラジル総領事館をはじめ、ビザの発行の相談ができる窓口など、様々な国籍に対応できるサポートが充実しており、多くの外国人市民が、住みやすさを実感しています。国境を感じさせない都市として、あらゆる市民が創造性を発揮できる社会をつくり上げています。

ささえあう【支え合う】

安心で選ばれる。安全だから選ばれる。

——支え合いがあるから安心——

地域社会全体で支え合い、だれもが穏やかに安心して生活を送ることができる街だから、浜松は住みやすいまちとして選ばれています。学校や診療所、薬局、店舗などが、防災や防犯の相談窓口となっており、だれもが気軽に利用することができます。

また、地域のコミュニティや企業などが連携した地域の見守り体制などにより安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

防災や防犯に関する教育は、子どものころから、家庭・学校・地域コミュニティにおいて行われて、多くの市民により、質の高い防災訓練が実施されています。遠州灘海岸には防潮堤ができましたが、すべての市民が「自分の身は自分で守る」とした意識を共有し、大規模災害に対する心構えができています。また、市民の安全と安心を守ってきた防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民に愛されています。

安全と安心を感じる中で、笑顔が生まれている。その理由は、地域における支え合いなのです。

——つながりがあるから安心——

デイサービスなどの福祉施設では、65歳以上の市民がボランティアとして元気に活躍し、利用者の話し相手や清掃活動をサポートしています。介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流によって、いつも笑顔が絶えません。在宅での介護や、障がいがあり生活支援を必要とする人には、地域の資源が大いに活用されています。

行政やボランティアなどの支援体制によって、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができ、介護する家族に対しても、生活の質を向上させています。

——充実した医療体制だから安心——

医療体制は、我が国の手本となっています。受け入れ患者の症状によって、救急医療の役割を分担しているほか、診療所で初期診療を行い、専門的な検査・手術や入院を要するものは総合病院で対応するなど、病院同士の連携が進んでいます。相互連携による質の高い医療の提供は、不測の事態であっても安心感があります。

また、病気にかからないための予防の重要性が認識されています。栄養・食生活、運動、休養などの視点から健康づくりに取り組みやすい環境が整備され、生活習慣病予防など健康に関心を持ち続ける意識が浸透しています。

はぐくむ【育む】

子どもは将来を担う地域の宝。

みんなで愛情を注ぐ。

——子育ての達成感を地域でシェア——

浜松では、子育ての苦労も楽しみも地域でシェアしています。

子育てに関する悩みがあっても、近所に住む「じいじ」、「ばあば」に気軽に相談でき、子育てのノウハウを持つボランティアもサポートしてくれます。子育てに関する知識が世代間で伝承され、一人で悩み、抱え込むようなことはありません。また、地域主体の育児サークルが活発に活動しているほか、地元のお祭りやスポーツ、昔ながらの遊びを通して、地域ごとに特色のある子育て方法も生まれています。

——地域の見守りで出生率は上向き——

勤め先では、育児休暇の取得は当たり前になっており、社会全体で子育てを重視した働き方を推進しています。

浜松の子どもは、みんなで育てる。子どもは将来を担う地域の宝といった意識が一人ひとりに浸透し、保護者や地域が一体となって愛情を注いでいます。このため、子どもたちは、「自分は大切な存在である」と感じ、人間力や社会性など、社会に出る上での必要なスキルを身につけています。

不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています。

——世界に誇る浜松育ち——

学校では、すべての子どもたちが笑顔で平等に学ぶことができます。基礎学力を身につけながら、子ども同士も互いの個性を認め合って、楽しく学校生活を送っています。また、子どもたちは自分に合った学びを選択することもできます。理数や語学、芸術、スポーツなどの素質を早くから見つけ、子どもたちの才能を伸ばす教育も盛んに行われています。

さらに、学力向上だけでなく、生きる力をはぐくむことに力を入れています。コミュニケーション能力や表現力などの人間力の向上が図られ、自立した人間形成に役立っています。

家庭、地域、企業、学校が連携して一人ひとりの子どもに関わり、地域社会の一員としてはぐくまれています。浜松の子どもたちは、自分のため、地域のため、国のため、そして世界のため、「世界に誇る浜松育ち」として個性を伸ばしています。

子どもが増えた気がします。これは、地域のみんなで子どもたちに愛情を注ぎ、子育て世代を見守ってきたからです。

みのもる【実る】

若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。

——60歳を過ぎるとカッコいい——

市民の5人に2人が65歳以上。とはいえ、もはや「高齢者」とは呼ばれていません。浜松の健康寿命は、生活習慣病の予防や医療の発達により更に向上し、65歳以上の市民が活躍できる時間は20年以上もあります。定年制度を撤廃する企業も増え、働き続けながら、経済的に自立しています。その中で、若い世代に学術や技術、社会で生きる術を伝承し、将来を後世に託しています。まちなかに低所得者向けの住宅が用意される一方で、住まいを自然豊かな中山間地域に移し、晴耕雨読の毎日を楽しむ人もいて、住みたいところで暮らし、健康で自分らしく生きる「カッコいい老い方」が一般的です。

人口の約4割を占めますから、世の中の中心的存在になっています。買い物や観光旅行など、消費を活発化させる重要な対象であり、企業においても、高齢の世代をターゲットとした商品開発に余念がありません。

——いつまでも快適で質の高い生活を——

地域では、予防に重点を置いた生活指導を充実させています。たとえ病気になったとしても、地域社会に見守られている安心感があり、自らの症状を受け入れ、望みを持ちながら生活の質を高める努力をしています。また、食材の調達・食事の用意を自立して行うことができる福祉技術が確立するとともに、歩行や普段の行動を補助するロボットスーツも市販されており、自分らしい生活を送ることができます。こうした技術は、世界中で好評を博し、海外に輸出されています。

ユニバーサルデザインへの理解が増してきました。施設や道路などの環境整備や生活用品などにユニバーサルデザインが取り入れられ、生活支援などのサービス情報をワンストップで提供するコーディネート機関も地域にあり、安心して快適に暮らすことができます。

「心のユニバーサルデザイン」が一人ひとりに浸透し、地域で暮らすすべての人が、互いの個性や立場を理解し尊重して、助け合いながら暮らしています。

——長寿が喜ばれる世の中へ——

また、一人暮らし世帯の数は、上昇傾向にあります。家族と近居したり、知り合いと同居したりする人が増えています。地域コミュニティの場の中で互いに関わりを持ちながら生活しているため、大規模な災害が起こったとしても、孤立してしまうようなことはありません。

いくつになっても、ボランティアなどの社会貢献をはじめ、スポーツや絵画、資格の取得などに挑戦し、適度な緊張感を持って輝き続けています。だれもが好きなことに夢中です。人生の達人は、企業にも地域にも必要とされ、若い世代に技と知恵を授けています。

はたらく【働く】

「やってみたい」を自由にチャレンジ。

——働くことにチャレンジ——

働きたい人が働きたい仕事に自由にチャレンジできる。それは、国籍、性別、年齢、障害の有無などには関係なく、すべての人に平等です。

働くことによって、ほとんどの人が生活の糧を得ていますが、たとえ無償の仕事であったとしても、生きている実感を味わい、社会の中で自分の居場所を見つけることができた人も少なくありません。また、会社勤めが主流ではなくなり、自らの目標を実現するため、新たに起業する人も増えています。

——働くことをサポート——

一方で、企業においては、労働者の生活環境やライフスタイルに合わせて、仕事量の増減を自由に行うことができます。求職の際は、身近なところに就業のためのコンシェルジュ的な役割を果たす人がおり、暮らしに合わせた満足度の高い仕事を供給できるように配慮されています。さらに、そこでは、就業のコーディネートだけでなく、様々な事情を抱え、働きたくても働けない人のサポートも行っています。また、転職についても、積極的にチャレンジできる環境が整備されていて、自分のやりたい仕事や適性にあった仕事を選択することができます。

——働きやすい環境を整備——

雇用の掘り起こしや働きやすい環境が整備され、高齢世代、女性、障がいのある人、外国人の働く場が拡大するとともに、定年の廃止や延長によって人口減少、少子高齢化による労働力不足の懸念は、解消されています。また、託児施設の充実などにより、子育て世代が働くことを社会で支えています。企業では、育児休暇制度を充実させ、休暇後の職場復帰も積極的に推進しており、子育てのために仕事を辞める必要はありません。短時間労働や在宅勤務が可能となり、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ、子育てや介護、趣味、地域貢献、ボランティア活動などに精を出す人が増えています。また、NPO 法人などの非営利組織も魅力ある就労先の一つとなっています。

かえる【変える】

ま ち 都市だって、スリムになりたい。

———住まい方を変える———

浜松では、土地や家屋が一生の財産であるとした考え方が見直されています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます。かつての空き家が大いに活用され、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した住宅として、リフォームされています。また、子どもの独立を機に戸建て住宅を売りに出し、コンパクトサイズのマンションへ転居する世帯も増えています。一方で、子育て世代が、売りに出された戸建て住宅に移り住むといったサイクルが形成されています。これにより、同一世代が一定の地域に集まることが少なくなり、地域において世代を越えた交流が進んでいます。

———居住エリアを変える———

拡大していた居住地は地域の拠点に集約傾向にあり、人口密度の高い地域は一層高まり、居住地域と農業や工業を営む生産する地域とのメリハリが明確についています。これにより、土地や家屋の流動化が進み、空き家や空き地は減少し、住宅団地などの一団の開発はほとんどありません。一方、生産する地域では農業の大規模化や企業誘致が進むなど、生産性が高まっています。

———乗り方を変える———

移動手段は、電車やバスなどに加え、地域や企業などが所有する乗り物をシェアし、乗り合いながら利用しているため、渋滞は緩和されています。個人で自家用車を持ち、運転を楽しむ方もいますが、安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんどです。市街地における日常の移動手段は、徒歩を中心としています。エコな一人乗りの乗り物もあります。道路は、歩道と車道が明確に区分され、交通事故は減少しています。歩くところにできたオープンスペースは、コミュニケーションの場となっています。また、居住地の集約化によって、不要となった道路は廃止され、他の用途に活用されています。

———公共施設を変える———

公共施設についても考え方が見直されました。点在していた公共施設の機能を1つの建物に集約したり、図書館だった施設に民間事業者が運営する映画館やカフェを併設したり、多様な機能を併せ持つ施設が整備されています。また、美術館が、休日には結婚式場、夜にはディナー会場になるなど、様々な用途として柔軟に活用されています。民間事業者やNPO法人などが運営母体となり、使い勝手の良い施設として、質の高いサービスを提供しています。

むすぶ【結ぶ】

もはや遠距離は、妨げではない。

——働き方に ICT——

ICT の向上は目覚しく、私たちの生活の細部に浸透しています。インターネット端末は、使いやすい機能性を備え、より身近なものとなり、だれもが賢く利用しています。

働き方が大きく変わりました。Web 会議などが主流になっており、仕事のために移動することは、月に数回程度。それ以外は、ほとんど自宅に対応しています。また、商店や小さな工場などは、インターネットを利用して世界を相手にビジネスを広げています。こうした生活は場所を選ばないことから、中山間地域の空き家をリノベーションしてオフィス兼住宅とするなど、自分の居場所を選択できるようになっています。勤務時間の概念がなくなり、自分の時間を活用できています。

——学び方に ICT——

児童・生徒はそれぞれインターネット端末を所有しています。電子黒板の活用により、授業の様子をインターネット端末で復習することもできます。また、緊急連絡の受信や位置情報の配信にも利用され、防犯対策も万全です。

ICT の普及とともに、情報倫理の浸透とセキュリティの強化が進んでいます。学校をはじめ、社会においても、情報を正しく評価・識別するメディアリテラシーを教えています。また、溢れる情報を必要な時に正しく使うため、メディアに依存しすぎないアウトメディアに対する考え方も身につけるよう指導しています。

——暮らしに ICT——

浜松が抱える膨大なインフラの維持に関しては、センサーにより遠隔管理する技術をいち早く取り入れているほか、市役所における手続きも電子化が進み、庁舎まで出向かなくてもインターネットでほとんど対応できます。また、医療に関しても、電子カルテによるデータ管理や遠隔診療、仮想内視鏡などの ICT 技術が日々向上しており、患者に対する利便性の向上や負担の軽減に役立っています。

——遊びに ICT——

観光面においては、交流人口を拡大させるため、豊かな自然や貴重な文化資源などの浜松の魅力を世界に発信しています。また、市域全体に公衆無線 LAN が整備され、通信が無料でインターネット端末を快適に使うことができます。さらに、仮想現実を活用して、テーマに応じた観光情報を配信するアプリは無数に普及しており、海外の観光客にも分かりやすく案内しています。

私たちは、情報通信技術を賢く活用し、生活の豊かさにつなげています。



浜松市

浜松市未来ビジョン

発行：浜松市

編集：浜松市企画調整部企画課

浜松市総合計画 基本計画

浜松市未来ビジョン 第1次推進プラン

(案)

基本計画目次案

基本計画【浜松市未来ビジョン第1次推進プラン】

1 未来ビジョン（基本構想）を受けて	1
2 都市経営の考え方	2
① 市民協働によるまちづくり	2
② 持続可能なまちづくり	3
③ 創造都市の推進	4
④ 変化を恐れない自立したまちづくり	5
⑤ 広域連携によるまちづくり	6
3 分野別計画	7
① 産業経済	7
② 子育て・教育	9
③ 安全・安心・快適	11
④ 環境・エネルギー	14
⑤ 健康・福祉	16
⑥ 文化・生涯学習	18
⑦ 地方自治・都市経営	20

1 未来ビジョン（基本構想）を受けて

未来ビジョンでは、一世代（=30年）先の未来の理想の姿として、「都市の将来像」と「1ダースの未来」を定めました。この未来ビジョンを受けて、第1次推進プラン（基本計画）では、バックキャスト方式を取り入れています。長期的な展望に立ち、30年後の未来の理想の姿を多くの市民と共有し、その実現に向けて、「今、行政が何を行うべきか」を考え、10年間の総合的な政策を定めました。

30年後には、人口減少と少子高齢化が更に進行し、高齢世代が約4割を占める最大の階層になります。こうした超高齢社会の中では、労働力の不足や社会保障費の増大など多くの課題が予想できます。超高齢社会を明るく豊かにすることは、簡単なことではありません。しかしながら、課題があるということは、裏を返せば、ニーズがあるということであり、ニーズが分かれば、進むべき道筋が分かります。発想を変えれば、新たな行政サービスを提供するチャンスとして捉えることもできるのです。

そこで、行政に求められるのは、「未来をつくり出すチカラ」。

将来にわたって、市民が幸せに暮らし、豊かさを実感できるように、信念のある挑戦をスタートさせます。

第1次推進プランの計画期間は、平成27年度から平成36年度までの10年間とします。

2 都市経営の考え方

都市経営を進めるに当たり、基本となる考え方として、以下の5項目を定めます。

①市民協働によるまちづくり

信頼で結ばれる助け合いの仕組み、それが豊かな未来をつくるための基本です。市民協働によるまちづくりでは、市民団体などが自然環境の保全や子どもの健全育成などの様々な分野で活動しています。市民の皆さんの回りにも市民団体で活躍している人がきっといるはずです。

一方で、個人の価値観や市民ニーズの多様化、少子・高齢化による社会構造の変質は、これからの私たちの生活環境に、大きな変化を与えることが予測されます。

このような中で、すべての人々が住みよいまちを実現するには、市民・市民活動団体・事業者がまちづくりの主役として、行政を含めたそれぞれの役割を果たすことが期待されています。各主体が互いの自主性・主体性を尊重しながら、持てる力を最大限に発揮できたら、思い描いた未来にとっても近づくことができます。そのためには、相乗効果を大きくするような連携を積極的に実践していかなければなりません。

この連携による結びつきは、ICTを有効に活用することで、強くできる可能性があります。行政情報を提供するオープンデータ化や各主体間の接続性を高めて、相互に参加・参画できる環境づくりを目指します。それぞれの主体の活動が連携して重なりあうことで、スケールの大きなことを動かしていくことができるはずです。

さらに、市民参画では、各主体が活発に意見交換し、時には笑いながら信頼関係を築いて、生き生きと活動できる環境を整えます。政策の形成・実行・評価・改善に多くの市民の自主的な参画を促して、市民の関心や行動力を高め、地域力を向上させます。柔軟な発想のもと、未来へのひとづくりと環境づくりを進めて、市民協働による市民主体のまちづくりを進めます。

②持続可能なまちづくり

市域を見渡せば、山、海、川、湖などの豊かな自然環境に恵まれ、沿岸部や都市部、中山間部の多様性を有する「国土縮図型」の政令指定都市を実感することができます。

将来を見据えた持続可能なまちづくりでは、市全体を住居・交通・産業などの視点で、コンパクト化・最適化する考え方が重要になります。人が集まることで、店舗や病院などの民間の活力が増して、より便利で快適な「まち」へと移り変わっていく、好循環を生み出すことが期待できます。

目指していくのは、拠点ネットワーク型のコンパクトシティです。市民が複数の拠点地域に住むことで、都市機能を集約して、公共交通の連携を進めます。こうした取り組みにより、自動車に頼ることなく、徒歩と公共交通で生活できるまちづくりを営むことができるのです。さらに、住むところと生産するところにメリハリを付けて、最適化されたまちを市民と共有します。

一方で、豊かな自然環境は、エネルギー源という、新たな恵みを与えてくれています。例えば、全国トップクラスの日照時間を誇る太陽光や多くの一級・普通河川、地域の約70%を占める森林などがあります。豊富な自然に配慮しつつ、環境負荷の少ない循環型社会を構築し、市民生活や産業活動を支えるエネルギーを持続的・安定的に確保していくことが重要です。

このため、太陽光や風力、バイオマスなど、自然環境を活かした再生可能エネルギーの利用促進やリサイクルの推進などに取り組みます。市内にある住宅や工場、公共施設などすべての施設が取り組めば、とても大きな効果が期待できるはずで、自ら生み出し、賢く使うエネルギーとして、自給率を高め、環境にも配慮した持続可能なまちづくりを進めます。

③創造都市の推進

先人たちが築き上げてきた「ものづくり」の伝統。現在まで脈々と引き継がれてきた理由は、失敗を恐れず、積極果敢に取り組む「チャレンジスピリッツ（やらまいか精神）」があったからこそ。ものづくりに懸けるひたむきな情熱は、創造性のあるオンリーワンの技術を生み、自動車やオートバイ、楽器、光技術など、世界に通じる多くの産業を発展させてきました。ものづくり産業の集積により、県内最大の人口を有する政令指定都市として、創造性のある自立的な発展を遂げているのです。

特に、世界共通の言語ともいえる音楽は、創造性の一例です。ものづくりの「楽器のまち」から始まり、今では「音楽のまち（音楽の都・浜松）」へと変貌を遂げて、国際的なコンクールや音楽を通じた国内外の交流などが行われています。

創造性といえば、アートや文化などをイメージすることが一般的です。しかしながら、創造性はそれだけにとどまりません。料理やショッピング、スポーツなどの日常生活のできごとを、クリエイティブに変えていくことも必要なのです。

創造都市を推進するために、これまで培ってきたチャレンジスピリッツを活かして、地域の文化や資源を生かした創造的な活動を支援します。そして、新しい価値や文化、ベンチャー企業や新たなイノベーションなどの産業の創出につなげて、市民の暮らしの質や豊かさを高めます。

そのためのひとつづくりでは、創造的な人材が育つ環境を整えて、アーティストやクリエイター、デザイナーなどを育成します。この地域に暮らして、創造都市のまちづくりを担っていくのは、日本人と国ごとに文化的背景を持っている外国人の市民です。すべての市民が互いに創造性を刺激し合うことで、常に新しい試みへのチャレンジが可能となり、これまでにはない価値や見たことのない感動が生みだされていきます。

④変化を恐れない自立したまちづくり

「想定外を想定すること」が今、行政に求められています。世界規模の不況や甚大な被害をもたらした東日本大震災や大津波など、予期せぬ変化に見舞われたとき、突発的な対応を余儀なくされます。予測される南海トラフ巨大地震が、30年以内に起こる確立は約70%。災害に強いまちづくりを優先的に取り組んでいかなければなりません。不況や災害など、急激な変化を恐れるのではなく、可能性を考慮して想定すれば、政策に活かしていくことができるはずです。

変化へ迅速に対応するために必要となるのが、それを支える仕組みづくり。総合計画の核となる戦略計画を毎年策定することで、政策・事業の体系的な進行の管理を行います。もちろん、進行を管理することだけが目的ではありません。政策や事業の必要性や実施主体のあり方について、見直しを行う政策・事業評価をすることによって、PDCA サイクルによる人材・財源などの経営資源の重点化や政策・事業のスクラップ・ビルドに取り組みます。

また、平成27年度から実施する新たな行政経営計画では、選択と集中による経営資源の有効活用やスピード感のある市民サービスの提供などを基本方針に決めました。その中で、公共施設の統廃合などの効率的・効果的な施設再編を行い、更なる民間活力の導入を図ります。さらに、行政が行う市民サービスなどの各事業の財源にきっちりとした裏付けがなければ、行政はサービスを提供できなくなってしまいます。そのため、財政規律をしっかりと堅持して、市債残高を抑制するなど、財政基盤の強化を行います。行政経営計画の実行性のある進行管理を行うことで、不断の行財政改革を進めます。

そのほか、自立した都市経営を一層進め、やる気と実力のある市町村の先行モデルとして地方分権改革をリードします。その具体的な取り組みの一つとして、道州制を視野に入れつつ、お金（税金）と仕事（行政サービス）の両面で県から完全に独立することで、県との二重行政を解消することができます。目指すのは、地域のことを地域が自ら決められる、地方分権の究極の姿“しずおか型特別自治市”の実現です。

想定外を想定し、変化に適応するチカラを身に付け、仕組みを効果的に運用することで、変化を恐れない自立したまちづくりを進めます。

⑤広域連携によるまちづくり

目指しているのは、三遠南信地域の一体的な発展です。この地域は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域からなり、古くからの街道「塩の道」を通じて海と山が結ばれ、歴史的、文化的な交流が深い地域です。

地域の人口は約 230 万人。工業・農業でも大きなポテンシャル（潜在的な能力）を持っています。また、地域の骨格として整備が進められてきた三遠南信自動車道や新東名高速道路、三河港や御前崎港、富士山静岡空港など、陸も海も空も利用しやすい交通環境に恵まれているのです。

県境を越えた地域の結びつきを更に強めていこうと、地域住民や経済界、大学、行政が一緒になり、平成 6 年から「三遠南信サミット」を開催して、一体的な地域の振興発展に努めてきました。このような取り組みが実を結んで、平成 20 年 3 月には、地域共通の目標となる「三遠南信地域連携ビジョン」を策定して、地域の将来像「三遠南信 250 万流域都市圏の創造」を掲げました。この地域連携ビジョンを推進するため、平成 20 年 11 月、県境連携を推進組織となる「三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）」を設置。地域の連携をより一層強めるために、中部圏の中核となる地域基盤の形成、塩の道工コミュージアムの形成、中山間地域を活かす流域モデルの形成、広域連携による安全・安心な地域の形成などを通じて、取り組みを積極的に推進しています。

このような取り組みを進めるには、県や市といった行政の区域の枠にとらわれる必要はもはやありません。市民生活や経済活動の範囲、歴史的・一体的な行政課題の性質を踏まえて、地域の中心都市として積極的な広域連携を進めることで地域をリードします。

①産業経済

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：01、02、10、12】

- ◆ 創造性と安定性を兼ね備えた浜松の産業が、世界経済を支えている。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ 新たな領域へ果敢に挑戦して世界に進出し、地域経済の発展に貢献している。
- ◆ 来訪者がおもてなしを実感している。
- ◆ 農林水産業と多様な分野が結びつき、付加価値の高い農林水産業が行われている。

10年後の姿の実現に向けて

産学官が連携した総合的な産業支援をオール浜松で進め、ものづくり産業の高度化と新産業や新たなビジネスモデルの創出を推進することで、地域企業がオンリーワン企業に成長するよう支援します。また、最先端技術の研究や開発を地域で行い、新たなイノベーションを海外に輸出する、という好循環により地域経済が潤うよう、地域企業の海外進出を促進します。成長産業が集積する都市、創業がしやすい都市として世界に認められ、多様な産業が発展します。

農林水産業では、ICTの活用やマーケティング手法の導入などにより、生産性の向上や、新たな流通システムを構築するとともに、健康や福祉などの新しい分野と結びつけ、多様な担い手が参画できる仕組みを整えます。農林水産資源の適切な保全と活用を図り、市民をはじめ世界中の人々に安全な浜松産品を安定的に供給します。

創造都市の玄関口にふさわしいまちなかの整備や、国内外に通用するブランドを確立するなど、来訪した多くの人がおもてなしを実感できるよう、浜松の魅力を高めます。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

世界の一步先を行く産業・サービスの創造

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

3 分野別計画(案)

(基本政策)

作業から経営に！変革を遂げる農林水産業

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

政策体系

(政策の柱)

- ・新たな領域へ果敢に挑戦して世界に進出し、地域経済の発展に貢献している。
- ・来訪者がおもてなしを実感している。
- ・農林水産業と多様な分野が結びつき、付加価値の高い農林水産業が行われている。

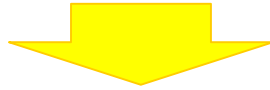
基本政策	政策
世界の一步先を行く産業・サービスの創造	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新産業の創出と既存産業の高度化による活力ある地域経済の実現 ➢ 企業誘致の推進による産業集積の促進 ➢ 魅力ある都心づくりと商業振興 ➢ 観光・コンベンションの振興による地域経済の活性化 ➢ だれもが働きやすい労働・雇用環境の整備
作業から経営に！ 変革を遂げる農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 農業参入機会の創出による担い手の確保 ➢ ICT を活用した魅力あふれる農業への変革 ➢ 生産基盤の安定による農業振興 ➢ 産業と市民活動による担い手の確保 ➢ 適切な伐採と流通の活性化 ➢ 森林管理を通じた環境対応社会への貢献 ➢ 適切な資源管理による水産業の振興 ➢ 漁港などの基盤整備による水産業の振興 ➢ 地元水産物の消費の活性化 ➢ 卸売市場の活性化による市民の食生活の安定
—	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 優良農地の確保と農業生産力の向上

②子育て・教育

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：06、08、10、12】

- ◆ 地域の宝として愛情を注がれた子どもたちは、浜松に誇りを持ち、世界を舞台に活躍している。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ 地域社会全体が相互に連携を取りながら、子どもたちの成長を第一に考えている。
- ◆ すべての子どもたちは、互いの個性を認め合い、夢と希望を持って学び、生きる力を身に付けている。

10年後の姿の実現に向けて

将来を担う子どもたちは、浜松にとって大切な宝です。自分の未来を描き、夢と希望に向かって主体的に行動できるよう、地域社会全体が相互に連携しながら、意欲と才能を最大限に引き出す子育てと教育を推進します。

子育て世代が、安心して生み育てられるように、子育てに対する不安感や経済的負担を軽減するとともに、教育・保育施設の整備や育児中の就労、育児後の社会復帰支援により、社会全体で子育てを重視した働き方を推進します。また、事業所内保育や地域主体の育児サポートなどを促進することで、家庭と企業、地域が一体となって子どもたちの成長を見守り、愛情を注ぐ環境を整えます。

学校教育では、すべての子どもたちが生きる力を身につけられるよう、教職員の資質の向上や少人数指導、ICTを活用した分かりやすい授業の推進に取り組みます。また、不登校、外国人、障がいのある子どもへの支援体制を整えるとともに、互いの個性を認め合い、心の通い合う温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、許さない子どもを育てます。さらに、音楽を中心とした芸術や地域の伝統行事などに触れる機会を設け、創造性豊かな子どもたちの育成に取り組みます。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

3 分野別計画(案)

(基本政策)

市民協働による未来創造への人づくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

政策体系

(政策の柱)

- ・ 地域社会全体が相互に連携を取りながら、子どもたちの成長を第一に考えている。
- ・ すべての子どもたちは、互いの個性を認め合い、夢と希望を持って学び、生きる力を身に付けている。

基本政策	政策
子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 妊娠・出産を応援するための環境づくり ➢ 子育てを応援するための環境づくり ➢ 子どもの成長を見守るための環境づくり ➢ 若者の自立を促す環境づくり
市民協働による未来創造への人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ すこやかな心と体を育てる取組の推進 ➢ 社会に対応する力を育てる取組の推進 ➢ 園学校や教師の力を向上させる取組の推進 ➢ 家庭や地域の教育力を発揮させる取組の推進 ➢ 一人一人の可能性を引き出し、伸ばす取組の推進 ➢ 子どもの生活や学びを支える教育環境づくりの推進

③安全・安心・快適

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：04、05、07、11、12】

- ◆ どこでも安全、いつまでも安心、持続可能な快適なまちになっている。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の生命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
- ◆ 居住エリアの集約化が進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

10年後の姿の実現に向けて

居住エリアを集約した拠点を配置し、拠点間を交通ネットワークで結ぶ「拠点ネットワーク型都市構造」へ転換します。また、空き家・空き地の有効活用や土地利用の適正化、都市の緑化推進に努め、豊かな自然環境と共存し、都市活力を向上させる、快適なまちづくりを進めます。

防災対策に関しては、防潮堤・防災施設の整備、消防・救急体制の充実を図り、道路・橋・上下水道などの強靱化、建築物の耐震化などを進めるとともに、地域と連携した防災訓練を通して、地域防災力の向上を図り、災害に強いまちづくりを進めます。

また、地域防犯の取り組みにより、犯罪を起こさせない、犯罪に巻き込まれない社会を目指すとともに、消費者教育を推進し、賢く無駄のない消費者市民社会の形成に努めます。さらに、交通安全教育の充実や安全な通学路の整備などを総合的に進め、交通事故のない社会を実現します。

自助・共助・公助の取り組みを通じ、「自分の生命と財産は自分で守る」意識を高め、安全・安心なまちづくりを進めます。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

みんなの力で災害から生き残る

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

3 分野別計画(案)

(基本政策)

市民が集い、安全安心で快適に生活できる活力ある都市づくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

安全・安心で快適なまちづくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防・救急体制づくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

安全な水と快適な生活、社会環境を水循環で支える上下水道事業

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

政策体系

(政策の柱)

- ・ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の生命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
- ・ 居住エリアの集約化が進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

基本政策	政策
みんなの力で災害から生き残る	<ul style="list-style-type: none"> ➢ みんなの力で災害から生き残る
安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域防犯の向上 ➢ 市民安全の確保 ➢ 消費者教育の推進 ➢ 戸籍・住民基本台帳・印鑑登録等窓口事務の適切な執行 ➢ 斎場整備推進 ➢ 墓園・墓地の整備推進
市民が集い、安全安心で快適に生活できる活力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 集約都市づくりの推進 ➢ 開発と保全が調和する土地利用の推進 ➢ はままつ流の多様なくらしに対応した「安全・安心・快適」な交通を目指して ➢ 安心、安全な市街地の形成 ➢ 都心の都市機能の強化 ➢ 安全・安心な居住環境への誘導 ➢ 市営住宅の既存ストックの活用 ➢ 緑地保全 ➢ 緑化推進

3 分野別計画(案)

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 都市公園・緑地の整備 ➤ 動物園の再生
安全・安心で快適なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 安全・安心で効率的な道路・河川管理 ➤ 安全・安心で快適な道路・川づくり ➤ 交通安全対策 ➤ 防災体制の強化
いつでも、どこでも迅速的確に対応する消防・救急体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 消防施設の最適化、人材育成の充実 ➤ 消防団の防災体制の充実 ➤ 火災予防体制の充実、火災による被害の軽減 ➤ 通信・指令体制の充実強化 ➤ 救急体制の充実強化 ➤ 航空消防体制の充実強化 ➤ 消火・救助体制の充実強化
安全な水と快適な生活、社会環境を水循環で支える上下水道事業	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 安全な水を、どなたにも確実に届け続ける浜松の水道 ➤ 未来へつなぐ快適な都市の暮らしを強固に支え続ける浜松の下水道

④環境・エネルギー

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：03、04、12】

- ◆ 豊かな自然を未来へつなぐため、環境への負荷を抑え、エネルギーを賢く使う生活を送っている。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ ごみの減量や資源化、自然環境の保全に取り組み、環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。
- ◆ 再生可能エネルギーが広く導入されるとともに、エネルギーの最適利用が進み、エネルギー自給率が高まっている。

10年後の姿の実現に向けて

天竜川、浜名湖、遠州灘、南アルプスなど豊かな自然は、多様な動植物をはぐくんでいます。この豊かな自然の恵みを次の世代へつなげるために、自然環境と共生するまちづくりを推進するとともに、市民生活に環境への負荷を抑える活動を取り入れ、温暖化防止を促進します。

また、ごみ減量や資源化、ごみの適正処理など、行政・市民・事業者がそれぞれの役割と責任を果たし、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を徹底することで、ごみ焼却や埋立施設の長期的な使用、効果的な活用を目指します。

全国トップクラスの日照時間を活かした太陽光発電や木材資源を有効に活用するバイオマス発電などの再生可能エネルギーの導入を一層拡大し、住宅や工場・事業所などの省エネルギー化に取り組むことで、エネルギー自給率を高めます。さらに、海外に輸出することも視野に入れ、成長産業として期待されるエネルギービジネスの創出にも取り組みます。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

環境と共生した持続可能な社会の実現

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

再生可能エネルギー等の導入と省エネルギーの推進によるエネルギー自給率の向上

3 分野別計画(案)

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

政策体系

(政策の柱)

- ・ごみの減量や資源化、自然環境の保全に取り組み、環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。
- ・再生可能エネルギーが広く導入されるとともに、エネルギーの最適利用が進み、エネルギー自給率が高まっている。

基本政策	政策
環境と共生した持続可能な社会の実現	<ul style="list-style-type: none">➢ 環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくり➢ 豊かで安全・健康で快適な環境づくり➢ 環境に配慮した資源循環型社会の構築➢ 安全・安心で安定したごみ・し尿等の処理➢ 不法投棄撲滅
再生可能エネルギー等の導入と省エネルギーの推進によるエネルギー自給率の向上	<ul style="list-style-type: none">➢ 再生可能エネルギー等の導入➢ 省エネルギーの推進➢ エネルギー関連ビジネスの創出

⑤健康・福祉

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：07、09】

- ◆ 支え合いによって、だれもが住みたい場所でいつまでも安心して暮らすことができる。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ 地域による支え合いのしくみづくりが進んでいる。
- ◆ 病気の発症や重症化を予防することにより、健康寿命が延びている。

10年後の姿の実現に向けて

住民が互いに支え合う地域づくりにより、高齢の人、障がいのある人の活躍の場を広げ、我が国が直面する超高齢・人口減少社会の諸課題に対応します。

活躍の場を求めている高齢の人に対しては、就労支援を進めるとともに、ボランティアなどの社会貢献活動に参加しやすい仕組みを構築します。これによって、高齢になっても住み慣れた地域で、生きがいを感じながらいつまでも暮らすことができる地域社会を目指します。

心身に障がいのある人には、働き、喜びを感じる就労環境を提供します。また、相談支援事業所などで働く職員の質の向上やグループホームなどの計画的な整備によってサービスを充実しつつ、関連団体と連携し、障がいのある人に対する市民の理解を深め、地域の支え合いの基礎を固めます。

また、病気や介護の予防に重点を置き、心と体の健康を維持しながらいきいきと暮らし、快適で質の高い生活を支援します。介護などが必要な人に対しては、医療・介護機関の連携を一層強化し、在宅などの必要なサービスが円滑に提供できる体制を整備します。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

人々の「つながり」をつくる社会の実現

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

人々の「心身の健康と生活」を守る

3 分野別計画(案)

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

政策体系

(政策の柱)

- ・ 地域による支え合いのしくみづくりが進んでいる。
- ・ 病気の発症や重症化を予防することにより、健康寿命が延びている。

基本政策	政策
人々の「つながり」をつくる 社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 超高齢社会への対応 ➢ すべての人が安心していきいきと暮らすことのできる地域福祉の推進 ➢ 適正な生活保護扶助費の給付 ➢ 超高齢社会における介護保険事業の健全で安定した運営 ➢ 国民健康保険事業の健全で安定した運営 ➢ 障がいのある人のライフステージに応じた支援の推進
人々の「心身の健康と生活」 を守る	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 生涯にわたる健康づくり ➢ 安全・安心な医療の提供 ➢ 地域医療・地域包括ケアの推進 ➢ 精神保健福祉活動の推進 ➢ 保健予防と食の安全対策の推進 ➢ 地域医療に貢献できる有能な医療スタッフの育成 ➢ 医療安全の推進 ➢ 保健予防対策の推進（感染症対策） ➢ 保健予防対策の推進（難病患者支援） ➢ 保健・環境に関する検査分析

⑥文化・生涯学習

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：05、09、11、12】

- ◆ 創造都市を実現し、音楽の都として世界から注目されている。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ 音楽による新たな文化や産業が創出されている。
- ◆ 文化・歴史・スポーツによる喜びや豊かさを市民が実感している。

10年後の姿の実現に向けて

浜松国際ピアノコンクールの開催や国際的な市民の音楽交流などを通じて、音楽の都として世界に認められる文化を創出します。芸術文化団体の創造的活動に対しては、芸術・文化に精通した専門家による活動支援を推進するなど、新たな創造の担い手を育成・支援する基盤を整え、世界で活躍するミュージシャンやクリエイターを増やします。

また、知性や感性を刺激するような魅力のある展覧会を通じて、創作活動への支援や情報発信に取り組みます。加えて、文化施設や生涯学習施設、スポーツ施設などでは、ICTを活用して、機能を充実するとともに、民間も含めた施設の複合化を進めるなど、利用者の利便性を向上させます。さらに、市民主体の企画による講座を増やして、だれもが知識を高める生涯学習の機会を創出します。

そして、地域の個性をはぐくんできた文化遺産の保全活用を進め、地域の歴史・文化の積み重ねが新たな文化創造の礎となるよう、次世代に継承します。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

感動のある生活、文化・歴史・スポーツによる豊かさの創造

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

3 分野別計画(案)

政策体系

(政策の柱)

- ・音楽による新たな文化や産業が創出されている。
- ・文化・歴史・スポーツによる喜びや豊かさを市民が実感している。

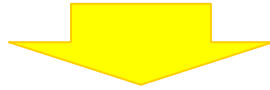
基本政策	政策
感動のある生活、文化・歴史・スポーツによる豊かさの創造	<ul style="list-style-type: none">➢ 新しい価値が生まれる文化創造都市の実現➢ 生涯スポーツを楽しむ機会の拡大➢ 生涯学習を享受できる機会の広がり➢ 地域の文化遺産の継承➢ 地域の文化遺産を保全・活用する博物館➢ 芸術・文化の拠点の創造と発信➢ 秋野不矩美術館の魅力の創出➢ 読む機会の拡大

⑦地方自治・都市経営

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30年後)

【実現を目指す1ダースの未来：01～12のすべて】

- ◆ 協働による持続可能な都市経営を推進し、全国をリードする自立した基礎自治体になっている。



10年後の姿(政策の柱)

- ◆ 協働に関わる多様な主体が連携し、活動しやすい環境が整っている。
- ◆ 世界が注目するシティプロモーションを展開している。

10年後の姿の実現に向けて

市民、市民活動団体、企業など、多様な主体が協働により結びつき、地域の特性を踏まえて、多様性に富んだ市民ニーズへ対応します。協働する市民などが持てる力を最大限に発揮できるよう、連携を強化し、政策形成過程、財政状況などの分かりやすい情報提供や市政情報のオープンデータ化に取り組みます。

あわせて、地域資源を活かしたシティプロモーション戦略により、浜松のブランドイメージを国内外に情報発信。ブランドを定着させるとともに、創造都市としての魅力を国内外で高め、世界から注目を集めます。

また、人財や財源など限られた経営資源を選択と集中により、効果的・効率的に配分するとともに、事業・施設のスクラップアンドビルドや規律ある財政運営を行うなど、不断の行財政改革を進めます。持続可能な都市経営に向けて、専門性の高い職員の育成を行い、柔軟に適応できる組織づくりを進めて、自立した基礎自治体として行政サービスの質と量の確保に努めます。

基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

市民の、市民による、市民のための都市経営

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

誰もがいきいきと暮らせる市民主体の地域社会の実現

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

3 分野別計画(案)

(基本政策)

人的・制度的運用の推進による都市経営の基盤づくり

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

(基本政策)

将来像を実現する財政運営、財産管理、財源確保の推進

- ◆ ○○○○
- ◆ ○○○○

政策体系

(政策の柱)

- ・協働に関わる多様な主体が連携し、活動しやすい環境が整っている。
- ・世界が注目するシティプロモーションを展開している。

基本政策	政策
市民の、市民による、市民のための都市経営	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 秘書・表彰業務の推進 ➢ 「浜松市未来ビジョン」の実現に向けた総合計画の推進 ➢ 基礎自治体としての自立 ➢ 創造都市の推進 ➢ 戦略拠点 ➢ 持続可能な都市経営の推進 ➢ 市民主体のまちづくりを支える広聴広報の好循環 ➢ 世界を含めた都市間競争を勝ち抜くシティプロモーションの展開 ➢ 世界とのつながりと多様性を生かした都市の活性化 ➢ 行政サービスが誰でもどこでもいつでも受けられる電子自治体の推進
誰もがいきいきと暮らせる市民主体の地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 市民一人ひとりが活躍する市民協働の推進 ➢ “まち”と“むら”をつないで実現する中山間地域の振興 ➢ 自由な選択の実行が保障されたユニバーサル社会の実現 ➢ 一人ひとりが自己実現できる男女共同参画の推進
人的・制度的運用の推進による都市経営の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 適正な組織体制と定員管理 ➢ 職員の育成 ➢ 政策法務の推進 ➢ 職員の健康管理と職場環境の安全管理 ➢ 行政情報の提供・公開
将来像を実現する財政運営、財産管理、財源確保の推進	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 将来を見据えた持続可能な財政運営の維持 ➢ ファシリティマネジメントの実現 ➢ 安全・安心で利用しやすい公共建築物の提供 ➢ 工事・物品の適正な契約 ➢ 技術職員の技術力向上 ➢ 公平公正・効率的な課税と収納
—	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 会計管理運営業務の推進 ➢ 公正かつ適正な選挙の実施 ➢ 適正かつ公平中立な人事行政運営の推進 ➢ 行財政運営に対する監査・指導の推進

第4回 浜松市未来デザイン会議 議事録

平成26年3月15日（土）2時00～3時52分

浜松市役所本館8階 全員協議会室

1 開 会

(事務局) ただいまから、第4回浜松市未来デザイン会議を開会します。会の進行は、会議のコーディネーター役をお願いしております、静岡文化芸術大学根本学部長にお願いします。

2 策定スケジュールについて

(根本学部長) みなさんこんにちは、コーディネーターということで会の運びをさせていただきます。今日もよろしく申し上げます。それではお手元の次第をご覧ください。毎回スケジュールを出しています。間をおいて集まりますので、今我々はどこにいるのかを簡単に確認した上で、そして資料3、4というふうに検討を進めて参りたいと思います。ではスケジュールに関して事務局よりお願いします。

(事務局) (資料2説明)

(根本学部長) ありがとうございます。スケジュールに関して何か質問等はいかがでしょうか。よろしいですか。では一言だけ申し添えますと、年度の変わり目に近づいてきました。ご案内の通り次年度には基本構想本体を固めていくところに差し掛かっているということかと思えます。我々の責務ですが、忌憚のない、敢えて市民公募の委員に入らせていただいているというのは、規制の概念にとらわれず、ここは違うじゃないかという率直な意見があるかと思えますので、是非建設的にご協力いただければと思います。

3 市民意識調査最終報告について

(根本学部長) それでは、今日の検討の本題に入っていきたいと思います。次は市民意識調査の最終報告ということで資料3に基づきまして、市民意識調査と申しましてもいくつかチャンネルがあるので、新しい試みとしては、ビッグデータというものを使ったというものもあります。では事務局お願いします。

(事務局) (資料3説明)

(根本学部長) ありがとうございます。まず資料の位置付けとしては報告ということですので、ですからこの資料の中身について我々が深く議論するということではないのですが、今後の意見交換の中でこれを使っていきたいということになるかと思えます。何かこの資料について、この段階で何かコメント、ご質問等ありましたらいかがでしょうか。一つだけコメントさせていただきます。42ページで、ソーシャルメディアは便利な、あるいは他の手段にはない、優位性がある、その一方で手法としての限界もあるということで、データの属性情報が難しいということで、ここは議論の余地が残るのかなと思います。というのはビッグデータの定義が何かということもまだはっ

きりしていないのですが、むしろ今マーケティングとかで使われている状況は属性が、ピンポイントで手に入るということがむしろ重要です。例えば活用例ですが何かイベントをやっている、イベントの最中にいちいちアンケートを取らなくても、リアルタイムでその反響を知ることができるというのが45ページにあります。ビッグデータの良いところはこれがピンポイントで分かることです。例えば道路が混雑するとか、子ども連れが不安だと言っているとする、その言っている人が誰で、何歳の人で、性別は何で、職業が何で年収がいくらでということがすべて見えてしまうというのがビッグデータの素晴らしいところなので、それが分かりませんということになると単なるインタビューやアンケートと一緒にしてしまうので、今後そういうところも議論の一つの論点になるかなと思ってコメントさせていただきました。余計なことを言ってすみません。あといかがでしょうか。

(酒井委員) 立派な報告書を作っただいて、読み応えがあるなと思ったのですが、これはここでしか使わないものなのか、それとも他の会議とか、一般に公開されるものなのかを教えてください。

(事務局) もちろん資料としてはインターネット等で提供します。これを他で使うということではありません。

(根本学部長) 酒井委員はむしろ他で使う方が良いということでしょうか。

(酒井委員) 行政であまりやったことがないと書かれているのですが、他の行政でやられたらどうでしょう。これだけ素晴らしいものなので使えないものかと思ったので聞きました。

(根本学部長) せっかくコストや時間をかけて、興味深いことが沢山出てきていると思うので、おそらく個人情報はどうということはないと思いますので、是非庁内でも応用していただくのが良いかと思います。あといかがでしょうか。ではまた後で気が付いたら発言していただいて結構ですので、次へ行ってよろしいですか。

4 未来ビジョン（基本構想）修正案について

(根本学部長) では基本構想の修正案についてということです。前回、前々回と、そしてその間にメンバーだけの全員協議会のような意見交換会も含めてお手元の冊子の資料4となっている浜松市未来ビジョン（案）となっています。これは事務局から説明していただきますが、1ダースの未来と書いてあって、これは我々の議論したのと違うのではないか、あるいは提案の内容としてこれは追加すべきだった、という意見が前回、前々回とあって、そのあとも事務局に色々お寄せいただいたと聞いています。それをもとに手直しを行い、今回の資料となっていると聞いています。では事務局お願いします。

(事務局) (資料4説明)

(根本学部長) ありがとうございます。一応これまでの議論を入れ込んで言葉遣いなど

修正していただいておりますが、まだこれで決定稿ということではありません。今回の修正点を踏まえて、またこれまでの皆さんの経験の中から追加的に、あるいはむしろ違う表現にした方が良いのではないかと、など時間の許す限り詰めていきたいと思っております。いかがでしょうか。

(村田亜委員)

2ページの市民協働の部分で、第2回の会議だったと思うのですが、その時も市民協働について話が出たと思うのですが、私のイメージとしては、市民協働というのは市民と行政や企業とかが枠組みを超えて、立場を乗り越えて課題に取り組んでいくというイメージがあるのですが、この文章を読んだ時に、例えば私のできること、参加してみようと思えるかなというのと、あと例えば「生活基盤については、公共インフラが最適化され」という段落なのですが、こちらはコンパクトシティとかぶるような気がして、この三つ「創造都市、市民協働、ひとづくり」というものがその下にくる柱のおおもとになる三つの部分だと思うので、それが柱の中に生きてくれば良いと思うのですが、そういう意味で市民協働というところに疑問を感じました。意見をいただけたらと思います。

(根本学部長)

どなたか関連して何かありませんか。私から一つコメントしますと、協働というのを使うようになったのはここ10年ぐらいで、普及しました。厳密に辞書に載るように確定はしてないのですが、単に仲良しグループとかで一緒にやりましょうということではなく、協働とっているのは、主体性を持って参加することだと思います。ある意味で責任もある。ですから勿論ボランティアでやるというのは時間や労力でできるものをやるわけですが、地域や都市を経営するという観点からは、お金は出せないけれど労働力なら出せますとか、仕事が忙しいからなかなか活動には参加できないけれど寄付金なら出せます、とか、出せるものを出してそれを経営資源として集めて、都市や地域を経営していきましょう、というのが協働だと、こういう一つの考え方があります。ですから書き方としては、市民の皆さんの持てる能力であったり、資源だったり、自分として提供できるものを提供する。それを単に出すからお任せというのではなく、主体的にその活動に参画できる。それが同等の立場でということの意味だと思うのです。そういう記述ができないかなと今のご質問を聞いて思いました。

(河原委員)

随分よくまとまってきたと思います。3つ質問をしてよろしいでしょうか。例えば12項目があるのですが、これをひらがなと漢字を並列してあるというのは、私が聞き漏らしたのかどうか分からないのですが、どうということかな、これから全部このように並列していくのか。例えば内容をみていくと、漢字の方の「創る」というのが文章に入っていたり、ひらがなの方があったり、例えば働くとか育むとかばらばらになっていますので、それも含めて並列する意味というのを教えてください。それから2ページの下から5行目ですが、「ひとを育て、モノをつくり、ニーズに応じたサービス」これを（こと）と置き換えていくということ。サービスがことなのか。さらに3ページの方にも上から4行目に「これが欲しかった」と思わせる‘こと’があります。このことの定義がその時々で変わってくるのか、サービスというのをことと言うのか、その関連性が分かりにくいのです。もう一つは9ページに、防災と防犯、地域の支え合い、というのがありますが、例えばコンビニエンスストアなどの店舗が防災防犯の相談所となり、ということで、これらの店舗をコミュニティの核とするという、こ

これはコンビニが沢山あるので、とても良いことだと思いますが、コンビニの協力を余程得ないといけないかなということと、最近、ここにコンビニがあったなと思うと、次に行くとなんかありますし、それが激しいので、ここに疑問を感じました。もう少し何か良い方法、コンビニを利用するのならこうだということがあったら良いのかな、と心配になりました。全体を見るとまだまだ文章の加除修正をしなければいけない所がかなりありました。それは細かいことなので、事務局と話をしたいのですが、2重に言葉が入っていると、言葉自体が分からないところがかなりありますので、直接意見を言って善処できる場所は加除修正をしていただきたいと思います。

(根本学部長) ありがとうございます。最後におっしゃっていただいたのはおそらく全員同じ思いになるのではないかと思います。このテーブルはこのテーブルで言うべきことをきちんと意見表明をするということと、あと必要に応じてこれまでやってきたようにまた意見交換会とか、個別に事務局とやりとりをする機会を持つことは可能だと思いますので、このテーブルが終わったら終わりだよということではないということを確認しておきたいと思います。その上で3点ご質問をいただきましたので、まずひらがなと漢字の件、これについて事務局から何かありますか。

(事務局) これは遊び心というか、辞書にひらがなで書いてあって漢字があるということイメージして。確かにこれは、これでなければならないということではありません、見せ方としてこのようにやってみたということです。

(根本学部長) おそらく見出しを作ったということ。むしろご指摘いただいたのは、それはそれとして、記述の中でひらがなと漢字が混ざっていますが、ご質問の趣旨は、単に見出しという意味で、辞書の見出しのように同じ内容のものが重ねて書いてあるのか、ひらがなで書く時と漢字で書く時に使い分けられているのかということだと思いますが、その辺はどうでしょう。

(事務局) この場合は同じものと考えています。

(根本学部長) 見出しということですか。ここはちょっと詰めましょう。見せる、プレゼンテーションとして目次のところは辞書の見出しのようなことをしていますが、文章の中は必ずしもきちんと整理されていないようです。それから、2点目は「こと」ですが、2ページ目にあって、これは実はマーケティングとかでよく使う言葉づかいで、業界用語になっていて、ものに対してことと言っている。ここでは都市経営のようなことをイメージしていますので、「ひと・もの・こと」が回っていくという意味で使っていますので、ほぼサービスの意味です。それ以外のところは「こと」というのはそういう意味は付けていないと思いますので、この両側にペケペケと付いている「こと」がイベントとかサービスの意味で使っていて、それ以外のこれが付いていない「こと」はそうでないと思います。その上で「こと」をどこまで使うのかということですよ。

(事務局) 確かに場所によって違うようであればそれも統一すべきだと思います。ただ物理的な意味ではなく「こと」だと思っています。

(根本学部長) カッコのついているのが特別な意味で使っていて、それ以外のところはそうではないということです。

(河原委員) では3ページの4行目の「こと」というのも「もの」と並べた「こと」でいいですね。

(根本学部長) ハードに対するソフトの意味で使っているということです。
それから最後の点ですが、9ページですが、改めて今ご意見をいただいて、コミュニティの核という言葉言い過ぎかなという気が確かにしてきましたね。コンビニというのはモノを売るだけではなく、防犯とか、色々な自治体によっては行政手続、住民票をプリントアウトするような端末があったりしますが、おっしゃるように基本的には営利企業としてやっていますからどんどん更新されていきますね。だからコミュニティの核とまで言うてしまうと持続性にクエスチョンが付くかも知れないですね。ここから先は私の一委員としての個人的な意見ですが、ずっと兵庫にいたものですから、阪神淡路大震災のあと、地域のコミュニティの核をどうするのか、兵庫県の場合は少子化で学校の教室が余ってきていますので、地元の小学校ないし中学校にコミュニティの核を作る事業をやっています。それから地元の診療所、これは行政がやるのではなく、医師会と社会福祉協議会と市民団体が、今は医療費が膨大なのでいつまでも入院しているのではなく、地域医療で支えましようとなっています。ですから地域の診療所なども地域のコミュニティの核のようになっていて、だからコンビニに限定しない方が良いでしょう。幾つか可能性があります。小中学校の空き教室、農協の設備も余っていると思います。そのため何でもかんでもコンビニがやるというのは書きすぎたなと思います。他にいかがでしょうか。

(松本委員) 7ページです。—ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」—に「一方で、自然豊かな中山間地域は、命の源である水を生み出す、欠かすことのできない地域であり」、その次に「その価値が見直されています。」というのがありますが、ここをもう少し一歩踏み込んで、「その価値と環境面の大切さが認識されています」と一歩踏み込んで書きたいなと思います。それからこの文章の後に、浜松の市街地、まちなかは天竜川の下流にあたるわけですが、それから浜松の中山間地域、これは上流にあたるわけですが、天竜川で結ばれている。この結びつきが私はとても大事だと思っています。その後の文章に例えばこんな表現を入れてもらえたら良いというのが、「浜松は水を通じて上流は下流を思い、下流は上流に感謝する気持ちが育まれています。」というような文章を入れて、浜松の上流と下流が離れた地域ではなくて、一緒に協力して、関連し合っている市だということを強調していただけたらなと思います。以上です。

(根本学部長) 今の表現を盛り込めるなら盛り込んでいただければと思います。関連して私も7ページを見て思ったのですが、これは水のことに触れて、それから観光という価値にも触れています。イベント的なことばかりではなく、林業なら林業が本業だという話があり、それを遡って考えれば7ページの記述も上流と下流、中流もあります、その関連性というのは水で繋がっています。イベントとか人の交流があるだけでなく、林業とか木材の需要

と供給であるとか、食材の需要と供給であるとか、それから下流で生ごみや残飯から作ったコンポストが農地に還元されるとか、そういう色々な循環ができあがっていると思うのです、水だけではなくて。だからここも今言ったように、上流と下流が繋がっているよという精神的な繋がり、理念的なものから始まって、非常に現実的な間伐材が下流でも使えるとか、そういうことも触れたら良いかなと思いました。すみません、私ばかり喋って。皆さん続けてどうぞ。いかがでしょうか。

(杉山委員)

先ほど河原さんが一つ目の質問でおっしゃっていた目次のところでひらがなと漢字があるということですが、前々回の会議の時に私が資料としてキーワードがあった方が良いという指摘を反映していただいたのかなと思うのですが、キーワードを一個としてくくってしまうと、ひらがなとしての役割しか果たさないというか、文章をこちら側でくくってしまうというのが問題で、例えばエネルギーだったら新エネルギーとか省エネとか再生可能エネルギーというような色々なキーワードを含んだ文章ですよ、ということ羅列させておいて、新エネルギーを調べたい人も省エネを調べたい人も、どこから入ってきても、その文章にたどり着けるような目次にしていただきたいという意見だったので、そこがどうかと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。目次のところですね。例えば「つくる」ときて浜松の産業としか書いていないが、ご提案の主旨はもっとキーワードが沢山出てくる。それがインデックス、目次機能を果たしてどこを読んだら良いかということにつながっていく。とても良いご提案だと思います。あとはどうでしょうか。

(外山委員)

今のことに付随するアイデアですが、目次を見ると、この会議に出席していてもどこに何が書いてあるのか、文字としてごちゃごちゃしているなという印象を受けます。キャッチコピーを、そこそこ大きい文字にしてあるのですが、そもそも目次を見る方は、例えば「つくる」で産業・観光と書いてあって、それを頼りに行くと思います。目次の時点ではこのキャッチコピーの文字の大きさを逆にして、あと全部に「浜松の」が付いていますが浜松は大前提なので、浜松を全部取って、「産業・観光・ものづくり」とかいうキーワードを入れてはいかがでしょうか。「見たこともない」感動をつくる、というのを入れるのなら、こちらを小さくて良いと思います。もう2つですが、3ページの先ほどの「こと」と「もの」ですが、上から3行目あたりに「機能からデザイン、サービスに至るまで見たこともないと驚かせるもの、また、これが欲しかったと思わせることがあります」とありますが、これは、「こと」と「もの」を入れ替えても成立する文章だと思います。見たこともない、これが欲しかったと驚かせるものことで良いかと思います。あと、最後に一番下の文章で、世界に発信する工夫がなされていますというのがちょっと弱いかに思っていて、工夫をしたけど発信できていないということもあり得るので、その発信力は地方都市でトップレベルですとか、その発信力は地方都市で一番ですというような強い文章にしても良いかなと思います。以上です。

(根本学部長)

はいありがとうございます。

(村田昌委員)

3の浜松のエネルギーのところ。上から2行目のところに、「ほとん

どの個人住宅や集合住宅には」とあって、あとその下の段の「エネルギーの自給自足」というところの2行目にも「個人宅だけでなく、民間企業や地域コミュニティにおいても」とありますが、地域コミュニティが何に相当するか分かりませんが、個人住宅も集合住宅も民間企業も個人の資産だったり、利用者の予算だったり、投資することとなると思うのですが、では市としてはどういう投資をするのかという、民間の投資だけが書かれているようにもとれるなと思いました。たまたま知り合いから教えていただいて、宝塚市が再生可能エネルギーの利用推進に関する基本条例というパブコメを出していて、それはかなり細かいのですが、その中には市民の責務、事業者の責務、市の責務が書かれています。市の責務の中には、市は再生可能エネルギーの利用推進を図る為、公共施設やその他公用財産において積極的な再生可能エネルギーの生産を行うものとする、ということが書かれています。浜松市の環境基本計画というの、この前別の委員会で見せていただいたのですが、この中にも学校施設ですとか公共施設、環境教育の場の充実も書かれています。市としてどういうところに投資していくかを出した方が良いと思います。もちろん先ほどの説明でも市にできることには限界があるというのはその通りだと思います。限界があるから全部やめるとか、限界を無視して全部やれということではなくて、その中間で例えば象徴的なことでお手本を示すということでも良いと思います。直近の話として、中部中学校が話題になっていますが、ではあの学校が本当にここに書かれているようなお手本になるような学校を計画されているのか気になるころではあります。今の話と30年後をごっちゃにはいけないのしょうけれども、何か市として、全部やる全部やめるではなく象徴的なことだけでも投資していくということができれば良いな、そういうニュアンスが含まれると良いなと思いました。

(根本学部長)

ありがとうございます。2点目のエネルギーですが、これも景観審議会でお手伝いして案件が上がってきたのですが、市は、既存の小学校に太陽パネルの設置をやっておられますよね。だから記述として公的施設はもとより、とか何かそういうことを一つ入れた方が良いでしょうね。公共というと狭くなる、公的施設といえば指定管理者も全部入ってきますから。「公的施設はもとより、個人や企業も」というのは必要だと思います。あといかがでしょうか。

(榊原委員)

見栄えというか書き方だけですが、4ページです。冒頭に表題というか、面白いなと思ったのは算数みたいに×(かける)、=(イコール)となっているんですが、その下が×(モノづくり産業)×(ICT)だったり、その下もそうなんですが、冒頭に×があるのが何にかかっているのか、はたまた、(ばつ)なのかと思ってしまう。単純にものづくり産業×ICTだったら最初の×はいらないと思った次第です。

(根本学部長)

事務局いかがですか。

(事務局)

自然の恵みに×(かける)ということで、スパイスがここに書いてあるものづくり産業とかICTのつもりでしたが、伝わらなかったかも知れません。

(根本学部長)

では今の指摘を受けて、話が伝わるように変えましょう。

(松尾委員)

先ほどのエネルギーのところですが、バイオマス発電のこととか生ごみのことが真ん中あたりに書いてあります。バイオマスの使い方という意味で、ほぼ100%発電に消費しています。この言葉自体ちょっとおかしいと思うのですが、それは別として、生ごみが100%発電で良いのかということもあると思います。先ほど出たように肥料として還元するとか、他の使い方などが当然出てくると思いますので、それをここに言い切ってしまうのはどうかなというのがあります。もし書くとしたら、発電に消費してはではなく、活用していますかなと思います。以上です。

(酒井委員)

14ページの「むすぶ」なんですけど、「もはや遠距離は、二人の妨げではない。」とあって、二人もひっかかるころなのですが、遠距離はとあって、ICT、情報通信技術だと思うのですが、書いてある内容は通信技術だけしか書いていなくて、情報が抜けているように思えたので、例えば「学び方にICT」と書いてあって、児童・生徒は、それぞれインターネット端末を所有しています。」と書いていますが、今学校で言われているICTというのは電子黒板みたいなものがあって、いわゆる、これまでとは違った授業ができますよ、例えば、ミツバチの生態を図鑑で見のではなくて、触ったり、動画でとか、もっと言えば、3D技術みたいなものが発達してくれば、それがAR仮想現実みたいなものでできあがってくる、というのが情報という部分だと思います。直接、遠くのものが見えるというのは素晴らしいことですが、情報技術の部分が抜け去ってしまっているのではないのでしょうか。特に医療技術においても、今まででしたら胃カメラを飲まなければならなかったものが、仮想内視鏡とかと言われるもので、CGですごく細かく撮ることによって、腸の中身が、それが画像再構成で見えるようになってきたというような、新しい情報という主旨の記載があると良いと思います。観光客にICTというのも、ビーコンなんかを使ったりとか、さっき言ったARを使ったりとか、携帯電話を持っていてその近くを通ったら、こんな新しいものができるだとか、クーポンなんか落ちてきて、それを見せると安く物が買えたりとか、そういうスポットスポットに応じたコマーシャルみたいなものが観光客に直接情報としてポンといくことができるのですごいということが書かれている方がふさわしいと考えます。遠距離というよりは、その時その時の「こと」に対して直接対応できるような情報技術があるよという書き方でないともずいぶんかなと思いました。

(根本学部長)

おっしゃるように14ページの、特にこの「学び方」というところを見ると、一人ひとりが端末を持っているというところに書かれていますよね。おそらく情報化というのは、コミュニケーションという部分と、システムそしてインフラという両方の部分があるので、コミュニケーションとしては端末を使って、そして社会的には変な使い方をしないリテラシーを、という話になります。システムとして、インフラとしてというのを書いておかないと。端末さえ持っていれば全部ということじゃないと思います。

(前田委員)

大体おおまかなところが決まってきた中で申し訳ないのですが、私もエネルギーに関してひとこと言わせていただきたいのですが、前から全体の文章を読んでいてすっきりしない部分があるなと思ったのですが、バイオマスや光や風力を使った、再生可能エネルギーを使って浜松

市は電力を再生していきますよという記述があると思うのですが、ここで省エネが謳われている、そして他のところで少子化という問題も取り上げられていて、エネルギーの消費量というのは減っていくと思うのですが、減っていくのに対してバイオマスを使って更にエネルギーを生産していこうというふうに捉えられるのではないかと思います。エネルギーが十分なところに更に再生可能エネルギーを使ってエネルギーを生み出すというのは、冒頭にある「未来に無駄なし。」というところに無駄が出てくると思います。自分としては文面に既存のエネルギーの生産と再生可能エネルギーの置き換えみたいな文言が織り込まれた方が、説得力があるのかなと思います。どこか最後のあたりに、環境に影響を与える既存のエネルギー生産からの脱却を浜松市は目指していきますというようなことが入った方が良いでしょう。

(根本学部長) ありがとうございます。

(村田亜委員) 多文化共生のところですが、日本人と外国人の文化共生というのがメインに書かれていると思うのですが、私自身は、例えばここにいる学生さんと私とか、私と先輩の方がたというのも、もう文化や価値観が日本人の中でも違うと思っています。例えば子育て中のお母さんの悩みだと、子どものことに対して年配の方からああでもないこうでもないと言われて、それが悲しいとか傷つくという言葉をよく聞いたりとか、外食に出かける時も子連れでは場所が限られたりします。子連れ専用のカフェにしか行けないとか、今結構分断されているとか、以前、根本コーディネーターが勉強会の時に20世紀は分業の時代だとおっしゃっていたのですが、日本人の中でもそういう年齢、仕事、男女などの区切りや分業がされているので、30年後の未来としては同じ日本人の中で価値観の違う者同士も一緒にコミュニティを作っていく、一緒に共生していくという文言が入っても良いのかなと思います。

(根本学部長) ありがとうございます。ここを改めて見て、おっしゃるように外国人市民と日本人というのが大きく前面に出ていますが、ご指摘の通りで、我々もそういう議論をしてきたと思いますね。日本語で言うと包摂（ほうせつ）、包み込むという意味ですが、違いを認めた上で社会にみんなで主体的に参加して認め合って社会を作っていく、これは外国人に限らず障がいを持った方とか、あるいは年齢が若いとか年を取っているとか、あるいは単身であるとか子どもがいっぱいいるとかいないとか、あるいは最近ではゲイとか、男女の性別であるとか、そういうことも含めてインクルーシブな社会ということになるだろうと思います。これは実は全体の1ページに書いてある「未来へ輝く創造都市」という、この創造都市の理念に深く結びついています。クリエイティブな価値を生み出していける都市というのはインクルーシブな都市なのだ、誰かを排除するような都市ではなくて、あらゆる市民が持てる能力を主体的に発揮できる環境のある都市なのだという議論がありますから、これは是非充実して書いていきたいと思いません。

(松本委員) サブタイトルを入れていただいたのは非常に良いのですが、サブタイトルの付け方は非常に難しいと思います。サブタイトルというのは文章全体を読まなくても大体の書いてある内容が分かるということで、非常に難しい

と思います。例えばいくつかもう一度見直す必要があると思います。私が気づいたのは10ページ、「はぐくむ」のところで、「地域社会が出生率は上向き」とありますが、これだけだと良く分からない。中を読んでいくと、みんなでというのが出てくるのでここは「地域社会がみんなで」、とあればみんなで作っていくのだなと分かる。それから隣のページも細かいことですが、「長寿を喜べる世の中へ」となっていますが、これは喜ぶのはおそらく社会全体が喜ぶことだと思います。年取った方が元気でいつまでも働ける、そういうことだとすると、「長寿が喜ばれる世の中へ」とすると、社会全体が今までと違って、若者だけでなく老人に期待しているのだなと分かってくる。他にもあると思いますが、サブタイトルは非常に大事であって、読む前にどういう内容が書いてあるか、というのと同時に読んだ後にもう一回見ると、まとめというか、こういうことなのだということが分かるようなタイトルの付け方が良いのではないかと思います。

(根本学部長)

サブタイトルはまだ工夫の余地がありますが、さはさりながら、ここにあまり盛り込んでしまうと簡潔な文章にならなくなるので、先ほど杉山委員からご提案があったキーワードと組み合わせ、簡潔な文章だけでは、全体を言い表し切れなかったら、プレゼンテーションのやり方としては、キーワードを並べろとか、それと両方でできるかなと思いましたので、工夫をしていくということだと思います。もしよろしければ私の方から一つ論点をお示ししたいと思うのですが、それは文化ということです。文芸大だから言っている訳ではありません。冒頭、全体のビジョンの包括的な将来像の一番重要なのが1ページにある「未来へ輝く創造都市」なんです。ここには文化のことが書かれているのですが、改めて読み返してみたら、他の部分では明示的にあまり文化、文化と言っていない。文化というのは非常に多様性のある言葉で、非常に広い、深い意味もある一方で、文化・芸術という意味の歌舞音曲というところとちょっと言い過ぎかも知れませんが、そういう部分と両方ありますね。改めて浜松が目指すビジョンとしては、やはりエンターテインメント、楽しい、面白いだけではなくて、新しい産業であるとか、新しい社会ができあがっていく根本的なところが文化だろうという思いがあります。具体的にいくつか論点を提示してみたいと思うのですが、ということで12の未来に13番目に文化を付ける必要はないと思います。この中に入れ込んでいくというやり方があると思います。そういう意味でいうと3ページの「つくる」というところが、やはり文化が大事だと、ライフスタイルの最後のくだりで発信力がトップレベルだ、何を発信するのかと言ったら、浜松というのは住んで良い所だ、そして色々なビジネスができる所だということを発信するのですよね。それから例えば、本田宗一郎がバイクを作りました、この本田おじさんをつかまえて、「あなたどうしてバイクを作ったのですか」と聞いたら、「面白いから作ったんだよ」と言う訳です。最初から儲けようというのではない。そういう意味で言うと、オンリーワン技術、イノベーションというのは技術、技術と言っていますが、まさに必要は発明の母で、こんなことがあったら面白いよね、こんなことがあったら素晴らしいよねというのが実を結んで、イノベーションになっていると思いますので、この「つくる」というところ、そういうあったらいいね、できたらいいねが実現できる、そういう経済的、社会的、文化的環境を持った都市になるのだというのを発信できたらいいなと思いましたのが一つです。それから、2点目は8ページで、これは先ほど委員の皆さんからお話しが出ました。認め合うと

ということが文化を作っていくにはとても大事なので、先ほどおっしゃった外国人に限らず、創造性を発揮できるような社会環境、文化がはぐくむのだということが書かれればいいのかと思います。それから9ページ、文化から離れてしまって申し訳ないのですが、防潮堤は、今後かなり議論が出てくる可能性もあるかなと思っていて、あまり建設的な意見でなくて申し訳ないのですが、1000年堤と書いてありますが、鉄筋コンクリートの寿命が大体80年なので1000年持ちません。3. 11で東北でも最初は16メートルの防潮堤だったのですが次々見直して今どんどん下げてきています。むしろ防潮堤を作るより、避難路が先ではないかとか、まだ結論が出ていないので議論を深めていかなければいけないので、ここは論点が残るかも知れないということだけコメントさせていただければと思います。文化の話に戻りますけど、12ページの働く、チャレンジする、ここの部分もやはり、こういうことが実現できたらいいね、こういう活躍ができればいいねということが叶うのだと、そのために自己実現や生涯学習というのが単に自分の心が豊かになるのではなくて、それがビジネスとなり、サービスとなり、地域を支えていく。特に先ほど言いました包摂的社会というのは、「あなたもう年取ったからリタイアしなさい」ということではなくて、その人の体力、気力に応じて活躍の場があるということだと思います。最後は14ページで結ぶのところですが、ここはやはりICT技術の活躍の分野として、是非単身世帯で豊かに暮らしていけるというのを追加できないかなと思うのと、もう一つは、レンタル自転車みたいな、社会の公共交通インフラというものが、このICTで随分豊かになるじゃないかなという期待があります。自転車に限らず赤電とかバスとか全部含めてです。単身世帯というのは20年後にはもう間違いなく3分の1以上が高齢単身世帯になっていきます。それが社会の中で孤立したりしないように、かつ自尊心を持って生きていけるような、というのがこのICT技術が大いにサポートできるのではないかと期待しますので、その辺が追加できればと思いました。どうでしょうか、何か文化ということでご提案がいただけないかと思ったのですが、文化に限りません、まだ言い足りないところがあったらおっしゃってください。

(松尾委員)

今のお話を聞いていて、全体を通した時に、浜松の代表的な文化とっていい音楽に対して少ないというか、ほとんど触れられてないと思いましたが、是非もう少し入れ込まないとまずいのではないかなと感じました。

(根本学部長)

ありがとうございます。そうですね、創造都市ネットワークというユネスコのそういった都市と都市の交流にも浜松は手を挙げてきているところです。楽器産業それから音楽コンクールであるとか、浜松まつりのあのラップであるとか、今市民主導でやっているフェスティバルとか、これは30年後大いに花開いているというビジョンは描けると思います。

(須藤委員)

文化との関連というところじつになるかも知れないのですが、文化度の高さというのは世界的にも女性の活用がどの程度進んでいるかということで計られる場合も多いと思うのですが、この中で働くという項目の中で女性の活躍について語られるべきかと思います。子育てママについては出ているのですが、高齢者が出ており、障がい者が出ており、女性という言葉が出てきていないので、もっと女性が生き生きと活躍できる場を提供してもらいたいという、そういう言葉を一つ入れていただきたいのと、も

う一つ、はぐくむのところで、最後「世界に誇る浜松育ち」ですけれども、これはとても楽しい学校生活が書かれているのですが、学校は誰もが平等に学ぶ機会を得られる場所であるので、こういう楽しい場面ができればいいなと思いますが、これを見ていて、学校教育がこれだけの選択肢のある教育の場を提供できるのかなというのを多少不安に感じたりしています。今ちょっと問題になっているのは、子どもたちの学力の差です。できる子はとてもできます。できる子たちにも学ぶ楽しさをどんどん発揮して、高いレベルに向かって進んで行ってほしいと思うのですが、本当に基礎的な学力が身につけていない子どもたちというのも現実に沢山いるのが現状です。ですから学びを選択できるというのは良いのですが、学校では学力を最低限保障する場であるということも一言付け加えておいていただくと良いかなと思います。学校の負担は増えると思いますが。

(根本学部長) 女性が活躍できるのは当然の世の中になっています。しかも活躍できるための経済的社会的環境がちゃんと整っている社会になっているはずだということとは異論がないところだと思います。

(須藤委員) と思いますが、一言それを入れて、それが当然であると。何故ならば、将来はそうであると思っていられっやと思います。今現在がそうではないというのが現状ですので、現状と変わるところがあるのであればそれを入れておいていただきたいと思います。

(根本学部長) ありがとうございます。そろそろ時間的なこともありますし、残りの資料もありますので、ここでこのビジョンの案についての意見を一旦まとめたいと思います。まだ言い足りない、あるいは足りないところもあるということです。前回と同様に気が付いたことは是非事務局にご指摘をいただければと思います。では全体をお聞きになって市長さん何かありますか。

(鈴木市長) ありがとうございます。だいぶ色々な要素がまとまりつつあるなという感があります。今日も議論を聞きながら30年前を少し思い起こしていたのですけれども、30年前から今あまり変わっていないという不変な部分と、大きく変わったところと色々あったなと思うのですが、特に様々な技術の発達でライフスタイルや働き方まで大きく変わってきたところがこの30年間でかなりあったなと思います。30年前を思い返してみると、まだワープロが出た頃なのですね。ワープロもキーボードじゃなくて最初タッチペンだったのですね。文字を拾うというのがそんな時代で、勿論パソコンはありません。やっとオフコンという言葉が流行り始めた頃でしたし、携帯電話も車載の大きな電話がある頃でしたし、まだファクシミリもそんなに普及していない。そうやって考えてみると驚くべき進歩だなと思います。端的に言えるのは、私は30年前に孫正義さんに会ったのですけど、当時は倉庫の一角を事務所にして、まだ創業したてで、コンピュータのソフトの間屋みたいのを始めていたのですね。それが30年ほど前の話でして、今のソフトバンクの隆盛をみますと隔世の感があるなというふうに思うので、30年というのは、たかが30年されど30年だという気がいたしました。そういう意味では、これからの30年に向けまして超高齢社会であったり、更なる技術振興であったりとか、様々な要素が想定できる中で、こうしたい、こういう世の中に、あるいはこういう浜松になって

ほしい、というもう少し想像力を更に働かせていただきまして、もっとこれがブラッシュアップされると良いなという気がいたしました。引き続きよろしくお願いいたしますと思います。

5 基本計画の構成について

(根本学部長) それでは再び次第をごらんください。ここまでがいわゆるビジョンです。それを12の未来ということで議論してきたわけです。次年度に向けまして、これを一つ一つの具体的な、行政だけではないのですが、行政施策だとか、あるいは地域の政策に繋げていくために基本計画という形でブレイクダウンしていく訳ですね。今回は事務局の方で今後これを具体的な施策にどう繋げていくかという、基本計画をどのような形でまとめていきましょうか、というたたき台のようなものがございます。これを皆さんとまた議論してみたいと思います。では事務局お願いします。

(事務局) (資料5,6説明)

(根本学部長) ありがとうございます。そういうことなので今日は今後このビジョンをより具体的に記述していくための枠組みの案が資料として提示されたということです。改めて整理しますと、ほぼピラミッドなのですね。完全にピラミッドで良いかというところでもないのですが、ビジョンが一番上にあって基本構想の柱立てがあって、その下に基本計画がある。基本計画は5年10年15年というふうにローリングで展開していくということになります。今日はまずこの全体の構成の話と、更に中身の話はビジョンそのものがまだ訂正が入りますから来月以降ということになりますけど、現段階で何かお気づきの点とかご提案があればこの場でご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(村田亜委員) 質問ですが、この基本計画に対して私たち委員はどのように関わっていくのか、何か作成されたものに対して意見を出していくのか、それとも私たちが意見を出したことを元に庁内で考えてくださるのか、結構細かい文脈の計画となると、きっと課の方のここにいらっしゃる方とかのコンセンサスとかがあると思うんですけど、委員としてどこまで関わられるのかを教えてくださいたいと思います。

(事務局) 確かに事業の中身になりますと、委員の全ての皆様が中々分かるものではないかとは思いますが。ただやはり細かく基本計画の中でも理想の30年後の姿を定めます。皆さんのした議論と、これは方向が違うのではないかと、具体的なものとしてこれはもっとこうの方が良いのではないかという意見というのは、より上のレベルでは話し合いのしようがあると思いますので、是非基本計画につきましても、中身の質問も含めた提案を出していただきたいと考えています。

(村田亜委員) 分野別の組織の中で、例えば子ども家庭部と学校教育部が一緒になっていると思うのですが、私が聞いているところだと、学童保育なんかは、今は子ども家庭部という部署になるのですが、実際、学校については学校教育部という関わりがあると思います。そうすると、例えば学校の施設を使っていると怪我をしてはいけなから外で遊んではいけない、という学

童があつたりとかして、関わっている課によってできない所とか入れない所がもしかしたらあるのかなというのを感じたので、策定するにあたり気になっています。

(根本学部長)

コーディネーターを仰せつかっている立場から、半分お願いで半分は論点整理ということでお話ししたいと思いますが、このテーブルは非常に自由闊達なテーブルであり続けることが大事だと思います。さはさりながら、やはりできることとできないことに最終的にはなっていくと思います。どちらが先かということでは明確にならないのですが、半分お願いと申しましたのは、どうかこのテーブルの発言は自由な発言として行政には受け取っていただきたいというのがお願いです。一方で我々は選挙で選ばれた議員でも何でもありません。ですから発言の全てが実現できる保証は全くありません。ですから例え取り上げられないということになったとしても、それを承知の上で、我々は積極的な発言をしていくべきではないかと思えます。そういう意味ではキャッチボールをして、行政としてはこういうことを考えているがどうであろうか、いやそれは壁を取り払ってやるべきではないかという議論はするべきだと思います。

(田中委員)

資料5の最初に出ていますが、この流れのやり方は非常に良いのではないかと思います。基本構想というのは未来ビジョンが出ていますので、これから入って、あと都市経営の考え方は市民協働によるまちづくりが最初ですけれども、一度、一般の方へボールを投げてみて、反応を見て、とにかく市民がそれを使わなければ絵に書いた餅になってしまうと思います。実際、災害では自治会なども出るのですが、自助、共助、公助というものがありまして、自助が7割、共助が2割、公助が1割だといわれます。実際最終的に動くのは行政ですが、やる気を起こすにはレベルをどこに置くかということはそれぞれ違うと思いますが、ボールを投げてみてやっていると、せっかく良いビジョンが元で基本計画を立てても、ものにはならないのではないかと思っています。極端かもしれませんが。

(根本学部長)

ありがとうございます。是非双方向のコミュニケーション、事務局案ができましたがこれでよろしいですかという話ではなくて、きちんとキャッチボールのできる運営を考えていければと思います。あといかがでしょうか。

(鈴木委員)

ここからが本当の会議になっていくのではないかと私は思っていました。今、私たちは農業と福祉を融合させて、ユニバーサル農業というキーワードで活動を始めたのですが、そうすると今までの行政の部署だともう連携し合わないに対応できないキーワードになっています。そうすると今作ってきた30年後のビジョンというのが新しいキーワードとして出て来ますので、そうすると当然その組織内をそれを達成するためにどういう組織であるべきかを一緒に考えていかなければいけないのではないかと思っています。例えばユニバーサル農業の話ですと、産業部の農業部署と障がいを持った人たちの部署それから企業関係ですよね、というのが当然会議の中に入らないと、というか、一緒に考える人たちがいないと成り立たないということがやってみて分かったので、同じテーブルに違う部署の人たち

を集められる機能がないと全然達成できませんので、今回この新しいキーワードを掲げた時に、どういう組織であるべきかを同時に考えないといけないと思います。30年後に一番必要になってくるのは例えば子育てといった時に、当然それを育てる親は会社、産業に関わっていたりするので、会社の制度も含めて男性も女性も子育てする時代になっているでしょうから、仕事、産業の部分も何らかの形で子育てに関わってくる体制になっていないとこのビジョンが達成できないのかなと思いますので、その組織的な部分も一緒に議論の中に入れてもらって、今までのような縦割りというような構造の中では達成できないのかなという意見というか感想をお伝えしたいと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。先ほどピラミッドと言ったのは良い面と悪い面がありまして、あまりシステムチックに制度的にやってしまうと、縦割りになってしまうと竜頭蛇尾というか、理念はカッコ良いのにやる仕事は前と変わらないじゃないか、となってしまうのはまずいですね。まだやり方は決めていないのですが、一つご提案ですが、今回まずビジョンのところはジャンルにとらわれずに12の未来ということをやってみたわけです。それが今日資料にある経済産業とか、子育てとか安心安全とかとどういう関係にあるのかということをやると、おそらく1対1ではないと思います。マトリクスになっていくと思うのです。そうは言っても全ての組み合わせが全てあるわけじゃないですね。農業と教育、子育てとつながるとか、つながりの濃い部分がありますよね。ですからその部分が今後我々はいつも大きいテーブルを囲むばかりではなくて、これまでビジョンでやってきたようにワークショップのようにして、いくつかの関係性の強い部分を集中的に詰めていく、最後は部局ごとに書かざるを得なくなりますので、そこはある程度仕事の仕分けはしなきゃいけないと思うのですが、いきなり部があって課があってというところから始めるのではなくて、かたまりで議論をしていって、それが最後に割振りをするようになります。当然我々は提案として、この部局とこの部局はできれば一緒にやったらどうですかという提案の議論も妨げないということで良いかと思います。最終的に行政組織をどうするかということに我々は手をつ込むことはできませんが、こうあった方がよいねと提案はできると思います。

(村田昌委員)

今根本先生がおっしゃっていただいたのですが、昨年の11月から1月にかけて意見交換会に参加させていただいて、あの時は各部署の方たちとお話しさせていただきました。そこで話した内容を今回のビジョンの中にも盛り込んでいただいて、本当にご苦勞をしてまとめていただいたなと思いましたけれど、これをもう一回来年度も、スケジュールを見ると5回目が5月にあって、6回目が7月にあって10月に7回目があって、3回この形があるだけになっているのですけども、何か双方向といわれている中で、どうしてもこの会議だと双方向になりにくいなと感じます。ですから来年度26年度においても、ああいった意見交換会があって、あの時は職員の方も参加していただきましたし、議員の方たちも声かけていただいたりしたのですけど、もっと、その時は本当に見ていただくだけだったのですけど、もうちょっと垣根を越えて議論ができるの良いなと思います。議論というかお話を聞いてみたいというのもありましたので、そんな運営方法を考えていただけると良いと思いました。

(根本学部長)

他の皆さんも同じような考えをお持ちの方が多くのではないかと思います。予算のことがあるのでこの場で行政になり代わって「はい」という訳にはいかないのですが、このデザイン会議の思いとしては市の担当の職員の方とか、議員の皆さんとの意見交換のできるワークショップのようなものを次年度も是非お願いしたいということで事務局にも検討をお願いしたいと思います。

(山田委員)

未来ビジョンの方でも言おうとして言いそびれてしまったのですけれど、基本計画でも市民協働という言葉が載っていて、ただ市民協働の認知度が低いと考えていて、実際一般市民の方々に市民協働ってどういう意味か知っていますかと聞くと、はいと言われる方は少ないと思います。私自身も地域協働センターというところに見学に行った時に、東日本大震災で被災した子供たちに楽しい夏休みをとることを企画した学生がいたという話を聞いて、学生が企画したことに色んな企業がジュースやお弁当の寄付だったり、被災した子どもたちにもものづくり体験をさせてあげたり、そういったことが色々あって、被災した子どもたちがすごく良い経験をして帰るといふその実際があり、それが市民協働だよということを聞くまでは市民協働の意味が分かっていませんでした。市民協働の中では歯車というのがキーワードになっていて、学生とか企業とかNPOなどの歯車が一緒になって大きなことが成し遂げられるという意味だと私は受け取りました。いくら私のようなお金がなくて提供できるものがない小さい学生である歯車であっても、市民協働の一部となれば大きいものごとを成し遂げられるというようなイメージはおそらくこの市民協働という言葉からは中々伝わらないと思います。もう少し色々な場面で市民協働という言葉が出てくるのでそういった説明が必要かなと思いました。

(根本学部長)

ありがとうございました。最後でしたが、とても重要なお話だったと思います。まとめ方として、まだ例えばなのですが、事例、市民の皆さんが共感できるような具体的な事例ベースのシーンを付けるというか、そういうのを付けるというまとめ方もあると思います。細かくすればするほど全体像が見えなくなるので、例えばですけど12の未来というのを例えばこんなプロジェクト、子どもたちの教育の支援、さっき出たユニバーサル農業とか、いくつかの具体的なシーンを提示する、そういうまとめ方があると思いますので、研究の余地があると思います。そうしたら、最後にとっても重要なことが出たと思います。きれいに整理整頓してしまうとまたこの自治体でも同じじゃないかという総合計画になるのを一番恐れなければいけないわけで、そうではなくてそういうシーンが見える、そしてそこにはいろんな部局が噛んでいて、一つの部局が専業でやっているのではないということが伝われば手に取った市民の皆さんが、私の活躍の場がここにあるのだというのが見つかると思いますね。是非その辺も取り込んでいきたいと思います。ということでこういうことも含めて4月以降もまた皆さんと一緒にやっていきたいと思いますので、また忌憚のないご意見を頂戴できるようお願いしたいと思います。ではよろしければ進行を事務局にお戻しいたします。

6 閉会

(事務局)

根本学部長、ありがとうございました。委員の皆様も活発なご議論をありがとうございました。これをもちまして、第4回浜松市未来デザイン会

議を閉会します。なお、第5回は平成26年5月24日土曜日、午後2時から、会場は同じ全員協議会室にて開催しますので、ご案内します。それでは、お気をつけてお帰りください。

浜企企第 46 号
平成 26 年 5 月 24 日

浜松市未来デザイン会議 委員 各位

浜松市長 鈴木 康友

第 6 回浜松市未来デザイン会議の開催について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第 6 回浜松市未来デザイン会議を下記のとおり実施いたしますので、ご出席をお願いいたします。

記

- 1 日時：平成 26 年 7 月 26 日(土) 午後 2 時から 2 時間程度
- 2 場所：浜松市役所本館 8 階 全員協議会室
- 3 備考
 - (1)市役所の休庁日ですので、時間外入口から入館をお願いします。
 - (2)車で来庁の場合、市役所駐車場をご利用いただけます。その際には、駐車券を会場までお持ちください。無料処理を行います。
 - (3)会議には、報道機関、市民による傍聴もあります。ご了承ください。
 - (4)欠席の場合は、以下の担当までご連絡をお願いいたします。
 - (5)当日、託児等何らかの対応が必要な場合は、事前にご連絡をお願いいたします。
 - (6)本市では、省エネルギーの推進に向けて冷房温度の 28℃設定を一つの取り組みとして推進しています。これに伴い、職員の軽装を実施しておりますので、会議への出席にあたりましては、軽装でお越しくください。

担当：浜松市企画調整部企画課 澤田、加藤
電話：053(457)2241
FAX：053(457)2248
E-mail：kikaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp